

軍艦高雄元山警備中ハ兼テ其ヘラレタル大本營命令ニ基キ左ノ件々注意處理セシムヘシ

明治二十九年四月九日

海軍大臣侯爵西郷從道
常備艦隊司令長官男爵坪井航三殿

一元山警備上兵力(陸戰隊)ヲ用エルヲ要スルトキハ必ス元山駐在帝國領事及同地守備隊長ト協議スヘシ

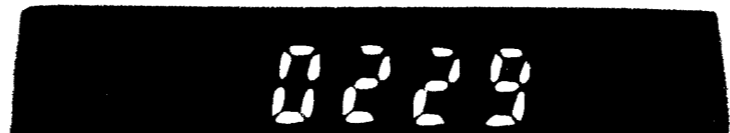
二前項ノ場合ニ於テ三者ノ意見合ハサルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申シ指揮ヲ待ツヘシ但居留人民ノ生命財産ニ危害ヲ蒙ルカ如キ危急ノ場合ニ

海軍

於テハ此ノ限ニアラス

三軍艦高雄ハ元山ヲ常泊港ト定ムト雖必要ト認メタルトキハ朝鮮國內ノ他港若クハ沿海ヲ回航スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ明治二十六年十月官房第二六〇九號清國及朝鮮國派遣艦長ノ特別訓令ニ依ルヘシ

四前三項ノ外尚ホ明治二十六年十月官房第二六〇九號ヲ遵守スヘシ



要旨

状袋状展



明治二十九年四月十三日送附

記録課長



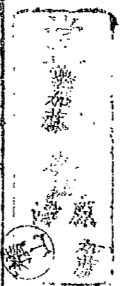
明治二十九年四月八日起草

同日四月十二日發遣



主件

廿九年四月九日發遣



6

通商局長



送第一一號

朝鮮國北探諸港、形勢、付外務省、在支山

内務總理大臣、外務大臣、陸軍大臣、海軍大臣、各通

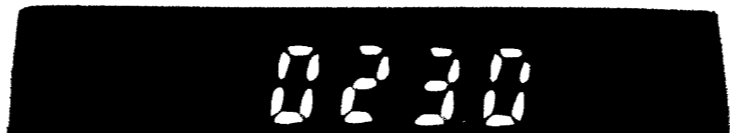
(但宮内大臣を除く)

朝鮮國北探諸港、形勢、付外務省、在支山

外務省

言二号領事より報告するに、為り次第、在

寫字通し



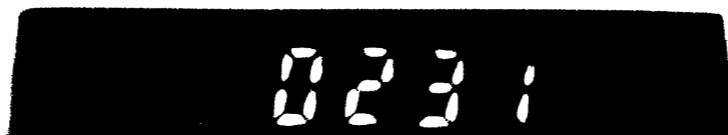
新江成興觀察使奉訪漢沽ノ要件

今般當首直成興觀察使奉訪漢沽ノ要件
 赴任ノ途次奉日本訪漢沽要領五ニ申出展
 奉安ヤ章坪ヲお登セヨ旨日ニテ九日間ノ日ヲ
 費セヨ他ニテラス途中ニ於テ各病ニクルト一ニ暴民赤々
 釁定セヨ各地ニ集合ニ居リテ危險ニサ夫レヤ為ノ集
 合地ヲ避ケテ回ニ来リテテ運更セヨト又安暹フ交
 下豊坪ニ来リタルニ人民五六百集合ニテ奉友ニ面稟
 ヤニテ諸ノ依テ其理由ヲ回タルニ過日元山ヨリ日本府
 備隊新坪場ニ来リ暴民ト稱ハテ十數名ヲ殺死シ
 良民ノ家ヲ劫リ財貨ヲ擄ケ去レリ依テ新坪場ニ警
 フ報セント旅漢中ニテ申出タルヲ以テ奉友ニ告グ

在朝鮮國元山港

日本領事館

ルニ日本兵ノ規律嚴正ニシテ凶暴ノ一毫モアルハチ若クモ
 日本兵ノ来リレ所ハ凶暴ノ一毫モアルハチ若クモ
 ニ達ニ成テ理由ヲク地人ヲ煽動シテ日本兵ヲ害
 セントスルニヨリ不測ニ釁定ノカヲ来リレテ日本兵ノ害
 我國ニ對スル有意義ヲナス事口傳教ニテ相暴
 ノ舉動ヲ為スハカラス依テ今ヨリ凶暴ヲ為ルヲチカ
 各自業ニ就キ堵ニ要スハ若シ暴行ヲ企トスルモテアハ
 カケニ捕ヘテ女衛ニ送リ以テ處分セヨハレ斯クスルハ暴
 民ニ敵ニ彼我兩國ノ民共ニ安全ヲ得ルニ至ルヘシ若シ
 奉ノ説ヲ容レサルニ於テハ是ヨリ力ヲ入京ニ政府ニ
 口奏スハレト各ハ且敷言ヲ以テ論ニシタルニ稍ニ其意ヲ
 解ニ引引西ヨリ照ニ臣皆智ノ者アルヲ以テ或ハ機
 策ニ括留地ニ何時官ヲ加ハシモ難キ奉友ニ守備隊



第九師團月十四日接獲 主官 通商局

通商局 田

四十七

三五七

嶺東視察使ニテ名刺ヲ所持シタル魚崎協ナルモノ別
皆以、身、命、内務大臣ノ秘訓ヲ携帶シ本年一月
十日京師ニ至テ京道各地ヲ巡回シテ暴徒ノ擾攘ヲ
抑察シトシ京ノ途次奉天南道守備隊巡警ノ賊
状ニ備シテ、團リ謀画有リ候

過日、隊守備隊ノ為、新球場ニ在テ、夜、逃、シテ、暴徒
ニ目、江、陵、ニ、集、合、セ、シ、義、將、岡、永、鎬、驪、州、人、李、秉、采、春
川、人、權、若、衡、江、陵、人、ノ、三、名、又、復、六、百、余、名、ノ、兵、ヲ、募
集、シ、テ、襄、陽、ニ、集、リ、駐、留、地、ヲ、襲、撃、セ、シ、ト、言、フ、目、下
出、發、ノ、準、備、ヲ、ナ、シ、テ、或、ハ、近、日、當、塔、附、近、ニ、暴
徒、集、ル、ヤ、モ、恐、ク、且、此、等、暴、徒、ノ、為、良、民、ハ、甚、ク、動、質
ヲ、操、得、セ、ラ、レ、暴、徒、ニ、對、シ、テ、日、本、兵、上、南、戰、ス

在朝鮮國元山港

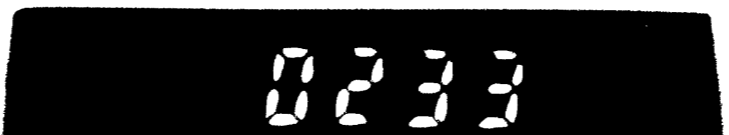
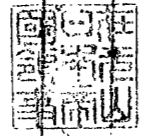
日本領事館

ハ、シ、ト、ハ、流、流、印、ニ、シ、テ、地、ニ、難、シ、モ、不、鮮、刺、ル、也
ノ、道、道、最、難、多、シ、ル、物、知、リ、テ、政、ニ、此、際、政府、又、ハ、地、方、及、ニ
於、テ、右、義、將、等、ヲ、逮捕、セ、シ、ハ、到底、鎮、靜、ニ、帰、ス、ル、ノ
日、ナ、ク、為、メ、江、陵、高、民、ハ、経、管、ノ、途、杜、絶、ニ、至、ル、可、シ、ト、申
指、候、尚、日、人、ハ、本、日、復、年、ノ、為、陸、路、京、師、ニ、向、テ、出、發
セ、ス

五元山

四月二十七日四日言 二番四等二口善久

水野武吉原 敬啟



秘訓

各府觀察使及郡守の州

此員の緊要公事を帯有さし、沿道地方官を

勿侵さし、危境を當りしを救護すべし、可き

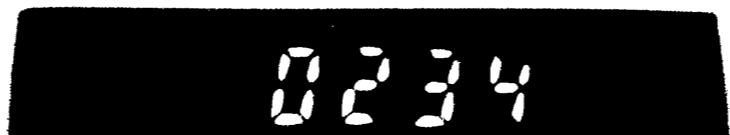
内務大臣

田務
振印

談

此員の緊要公事を帯ルニヨリ沿道地方官に侵す

ナラ危境に當りたる時は救護スベシ



明治九年四月十四日接受

主權通商局

機密第十七號

咸鏡道北道勸業司函上申

富道北道各地に於ける勸業司の事務は元來我
商民ノ利害ニ關係アルヲ以テ幸ニ目下海陸ノ保護
ヲ受ケ居ル際ナシハ該方面ノ實情精々探知シ遂テ
尙書以府又ハ地方官ノ解勸曉諭ヲ要スルモノハ其
手續ヲ為シ我行政商者並業者ヲ以テ該方面ニ對ス
ル一般貿易ノ便益ヲ謀ルコトヲ急要ナリトナラヌ一
面ハ又其勸業司ノ内務派遣ノ測量隊ヲシテ充
分其目的ヲ達セシムルコト亦緊要ト相考ヘ折衝探
偵ヲ盡シ本官ノ交渉ニ得ヘキ當該官トハ前途
ニ續クシテ一面ハ探知探偵ノ状況御省ニ具
報スルト同時ニ一面ハ小村公使ニ報告スルニ付

二十九

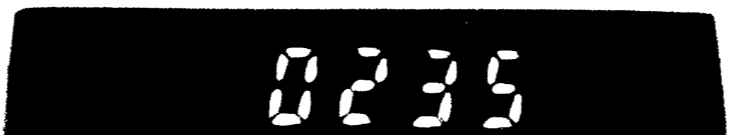
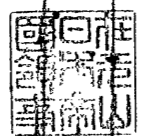
同公使ヨリモ參酌ノ上時々尙書政府以ての忠告
を以テコトニ信シ居ルが故に北道各地地方官ハ先函上蒙
ノ程用ニ付テ存トナリ良民ハ向背ニ違フノ傾キ未見ナ
ク此際大臣ヨリ同公使ニ尙書念及テ是を以テ極致
を不詳ニ此程告知ヨリ歸ル元セシテ高麗ヨリテ
あり是迄ノ情況ニ付之リテ茲ニ本局ハ一週ニ供して
敬具

明治九年四月十四日

在元山

二等領事 白美又

外務次官 原敬殿



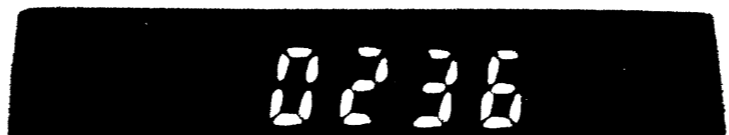
當地五百井高后田田在久在評治野願

一第去年自十月日當地元山ヲ於發北吉州附近暗河
歸ニ至ル但ニ商賈ノ目的ヲ以テ當時地方ノ民情ハ昨年若シハ
一昨年ニ比スルハ概ニテ強猛悍薄ニ傾キシト云凡高商賈買
耐ニナル且ニ至カリテテ須臾ク全地ノ向塵ニ止宿ヲ定ム後新
業ニ勉メタリ然レニ韓曆日中同ノ自ヨリ江原並賊徒ノ移成
一艦ニ流布シテ刻リ甚キニ元山塔塔留地ノ日本人ハ悉致成セ
テレ舞ハ皆殺戮セラレタリトノ謠説カハ人口ニ膾炙スルニ至リレ
後ハ人ハ向トナク驢然トシテ余ヲ輕蔑スルヲ甚ク時ニ此唱ヲ
ワハ加フルニ至リテテ最卑商賈由引為分商賈在スルニモ
多サハ戒ヒテ安スル場合トナリタハ時機ヲ計リテ歸スルニ上
ニ密ニ其準備ヲ成セリ

在朝鮮國元山港

日本領事館

一韓曆自二十三日朝斯クトモ知ラマ吉州ノ暴徒三名ハ
此暴徒ハ先ニ西昌隊ニ危害ヲ加ヘ
至極動搖ヲ上テ後高厚ノ主人ノカ 要然者宿三團入ニ來リ此
ニ予ニ向テ誰何ニ且曰ク汝何者久モ此地ニ止リテ在カル若
テ強トは荷日ヲ此地ニ移クハ敢テ之レヲ容赦セカレト云
答答勇ヲ答テ己ニ措奉ノ起ルアラントスニ際ニ予ニ主人
ノ懇切ニ庇護スルアリ且自身モ韓服ヲ穿ケタル所言諸
不通ノ答辭ヲ成シ一切ノ并解ハ主人之レヲ担當シテ其場
斷シ奉爾モタリ然レニ尚高品ノ敬遠セルカ為ノ其西屋ヲヲ
為カド初ニテ一周回余日ヲ此家ニ潛匿ニテ送レリ其後又屢
此唱ヲ逞ケレ或ハ之レヲ致逐ス可モ或ハ之レヲ撈殺ス可モ予ノ
密尋身ニ入ルノミテラス最早主人モ此上ハ庇護スル能ハス者モ
強テ之レヲ凶カハ後ラニ天厄ヲ若ニスルノミナレハ速ニ歸スルニ
送通スルヲ以テ余遂テ十日ニ朝鮮如ヲ辱ニ蒙テ購入



道キクルサ評ノ大豆ヲ載セテ出帆セリ果セル哉今ハ解艘ニテ一擲
ヲ定メテ判那暴人等ノ窮追スルアリト云此れ時己ニは陸隔ツ
一浪障之レ余ニ取リテ非常ノ幸福ナリキ
一夏レヨリ先キ明川附近一控一鑛珠府ニ控テ改葬ヲ各トニ整リタルノ控
議ニ序ルラレキ初防穀令ヲ以テ聽シ大ニ各地ニ内ヲテ傳令之レテ
發行セシトスルノミナリス己ニ五車購入ニ置ケル物迄モ京價ノ半
ハラヒテ京價主ニ拵渡ス可ト迫ルカ地キ之レモ予ノ困難ヲ
以セル所ナリキ之カ為メ終ニ買入全部ハ抽取スルニ由テラ屋ニ之レ
ヲ管理ヲ常雇ノ韓人一名ニ托シ置キテ採掘セリ其後如何ニ
ナリキヤテテ遣ハシ

一嘗地味五中吾止宿セル同屋ノ地キハ屢年感セザアリキ向
トナレハ日存人増進ノ精神ヲ轉シテ同屋ノ主人ニ及ブナリ且
一般ニ今後日存人同屋ニ控エテ之レヲナスハカラスニカモ尚キ

強ラ之レヲ犯カババ危言ヲ加フニトノ契約傳令テ同屋ハ事案
アリ聞カ地味ハ新神新昌通湖等皆然リト云フ

一余ヤ尚同地味五中事ナリキ一日散髪韓人ノ驕馬ニ乗陸
ニテ同地味過ケルアルヲ見シ之レ日存則量者ノ妻裝セル者ナ
リトテ力ケニ之ヲ捕ヘテ殺打シ殆ニ絶命セシトスルニ至リテ余
釋解トシテ檢査セシニ全此日存人タルノ証跡ナク且巾着
中ニテ書類類ニヨリテ斷ツ自國人ナルヲ知リ殆ニテ之ヲ放逐
セシテテリ其暴案ニ言諸ニ絶ス

二月ニテ廿六日頃(膠州)向ム同屋日存人ヲ捕ヘシモノハ相當ノ賞
金ヲ百フニトノ撥文江京道ヨリ回送セシタルヲ吾屋韓人
見見セリト云

一嘗時露國人ノケテホラ同地方ニ散見スルハ事案ナリ予モ同
地味五中一兩度目撃セルヲアリキ其最新ノ日ハ行ケ韓曆

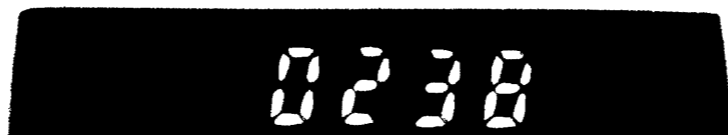


一月十日頃より而エテ此地方ノ韓人ハ露國入ヲ呼ヒテ馬牛ヲ
強テ之ヲ抗セシトスル者ナキカ如ク然レバ其能ハ何故テ
ルカ之ヲ詳ニセヌ

一日測量隊が逐ノ際其ノ痛動者トシテ何レノ三名ノ
奴ハ日回市ノ人民ヲ曠集セシメテ糧食ノ供給ヲ求メ又テ坊
トリト傳フ其故ハ切實ニ明カトナフニテ

要ニ此部地方ニ般ニ日存ノヲ懸念スル其ニ且露西
臣ヲ後捕トナシテ後ニ大言ヲ吐露シ且日若ニ再ニ日存ノ
事ルアラハ力ヲ盡シ撲殺ス可ト揚言セリ此況ニ已ニ斯ノ如キハ
故ニ今後更ニ此部ノ高橋ヲ收メシハ實ニ天ヲ輕キヲ加ヘ
大ニ日存ノ勢カラ歟興スルヲ要スルハ復此進ムル時
機ナキルハシ

在朝鮮國元山港 日本領事館



大臣

閱了

明治三十九年四月十五日起草
同 廿九年四月十七日發遣

通商局長

中田

主任

次官

中田

政務局長

中田

急

在京城

特命全權公使小村壽太郎殿

外務大臣伯爵陸奥宗光

常備艦隊司令長官、別派之通商副相成

度、海軍省ヨリ通牒有之度ニ付、為御

外務省

参考に写差進度、敬具

本館に保管あり、明治三十九年四月十七日、中田、中田、中田

東京、中田、中田、中田

七二

明治二十九年 四月二十五日起草
同 廿九年 四月十七日發遣

通商局長

主任

急

機密

在元山

宗領事ニ美久殿

外務次官原敬

清備艦隊司令長官一別紙ニ通内訓相

成侯旨海軍省ヨリ通牒有之度ニ付右写及

外務省

御送有度内軍艦高雄元山警備中各艦

長及元山警備隊長ト協議し其邦居留

民ノ保護ニ被任度此段申進候也

五月八日海軍省より廿九年四月十七日官文第一〇二〇号ノニ
付通商局長宛ニ送付



要再廻

明治二十九年四月十八日起草
四月廿日發遣

主任

通商局長

閱

機密

外務大臣 佐藤 嘉良

内閣總理大臣 齋藤 實
外務大臣 齋藤 實
外務次官 齋藤 實

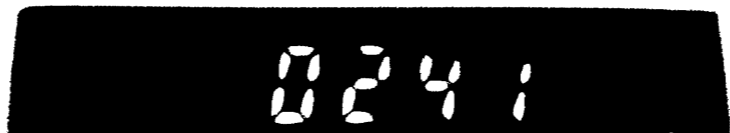
(但書あり)

朝鮮國咸鏡道北境、動靜、付外務省

外務省

在支小官二名、領事官、秘書官、各一名

年考、始、終、各一名



大臣

次官



政務局
主管理商局
第九年四月二十五日特受

在朝鮮國元山日本領事館

公 第 四 十 三 號

四二二九

曩ニ京元間電保五日トナリニ為ノ修繕接護
 トレテ管降守備隊ヨリ多ク軍曹以下七名
 京味ハ派遣ノ余カ反岨ニ於テ暴徒ニ襲撃
 エラタル趣ニ前仕但事ヲ多ク報告致カレ
 所安其管財被害者ノ姓名甲報申スル
 有リ候間年延引右表ニ著ノ姓名別報ニ
 退ノ多ク申候如具

五元山

此任ニ於テ年四月十日ニ奉仰事ニ口美外
 加務所及京元殿

在朝鮮國元山日本領事館

三	一等軍曹	及久久吉
上	二等兵	田中今弘
左		安五砂次郎
一	一等兵	廣瀬元次郎
左		渡辺富藏
左		高田金次郎
工	夫	三橋藤次郎
左		地畑兼太郎
	朝鮮人	一名

5-1310

0243

總理大臣
外務大臣
御下



大臣

朝鮮國元山港本日領事館

第九年四月二十五日發

主官 通商局

政務局



公第 五十四號

9130

北開地弓ノ情況	北開地弓ノ近狀ニ關シニ探知探聞ノ情況別 依ノ通リニ指シ候間所參考ニ差出候敬 具	五元山	明治廿九年四月十二日 奉命奉ニ口美久 附務局長原敬殿		
---------	---	-----	-------------------------------	--	--

第九年五月十三日 奉命奉

5-1 3 1 0

0244

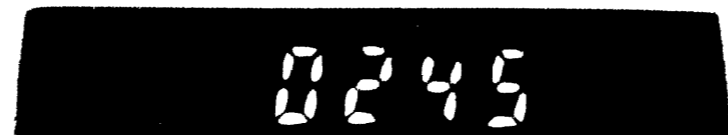
北園地方情況

高厚以北各郡ニ於テモ彼ノ倡義ノ徒堂與ヲ募集シ
威嚇ト北青ヲ奪管トナシ掠奪ニ由リテ段ヲ以テ糧
食助貸ヲ徵集シ又此等ノ需索ニ應ゼザル地方安ニ對シテハ
暴行ヲ加ヘントスル旨ヲ示ルヨリ馳レモ怯懼現ニ定平郡
守ハ逃走セントシテ報テハレテ留置セラレ北青郡守ハ新
任觀察使ノ出巡ヲ名トシ陸路當塔ノ道ヲ乘リ去ルナ
ニ日笠山行所出巡者号ニ厚集セリト云フ
威嚇ノ新ニ觀察使着任後集テ各地ヨリ入込括ル
匪魁三名ヲ逮捕シタルヲ以テ彼倡義輩ノ勢力漸ク
減殺セリト云フ

在朝鮮開元山誌

日本領事館

ナ日入塔ノ出巡者号ニテ乘元ニハ當時カケテ該方面
ノ状況ヲ同右ニセタルニ本月七日利原ト瑞川トノ間ニ在
谷口驛ト稱スル所ニ於テ暴民ノ襲撃ヲ受過セリト云フ
リ然ルニ此暴民ハ外國人ニ對スルモノニテラスレテ又一種別
ノもの相同ハシク
北道宣諭使李鍾健ノ一行昨日德源府ニ到着ナ
日威與ノ向ケテ奔テ暫ク同地ニ留リ據拠ニ依リ吉州
方面ハ出巡スルヲ云フ



内務部

大東

次官

明治二十九年五月十六日發

主官 通商局

機密第二〇號

南部暴徒巨魁龍鶴ヨリ露公使及外國人

送りタル書面入子ノ件 附南北兩部状況報告

今回當國各地ニ暴起ノ匪徒ハ主トシテ我ニ對シ敵

意ヲ執ミ我人ノ民ニ對シ殘虐ヲ肆ニシ他ノ外國人

ニ對シテハ毫モ暴行ヲ加ヘザリシコトハ蓋シ其因由

ナクシテハアラス而シテ曩ニ機密第百十号信申中セ

レ所ノモノ亦其一因タルニ疑ヒモナキ所ニシテ頃入

手シタル江陵ノ倡義士同龍鶴ナルモノヨリ燕城駐

劄露公使及元山在留外人ハ送りタル書面ニ據

レハハ露兵ノ入韓ヲ謝シハ我ヲ襲フノ計畫ヲ

外國人ニ内通シタルモノニシテ即チ本邦人以外ノ外國

人ニ對シテ他意ナキヲ表明シタルモノニ有之候

又頃江咸兩道沿海ニ露國艦船ノ出沒頻例ニナリ

シト同時ニ彼ノ揚言塗詭ハ漸ク薄ラキ暴徒状況

モ頗ル鎮靜ニ歸シタル如キ異光相見ハ候ニ甘不取

敢南北西面ノ状況ヲ偵察セシメテ處未タ全ク鎮定

ニ至ラス候一共状況ハ稍減殺シタル承認セラレテ

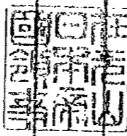
別紙ヲ參考ノ為ニ附一覽候故具

明治二十九年四月二十九日

在元山

二等領事二口美久

外務次官原敬殿



朝鮮國倡義大將圖 謹白拜上書于俄國大人伏願明
以下鑑焉、竊聞貴國大義存正、繼絕扶弱、折強信
義著於海內外、他諸國孰不欽仰、惟我有明朝鮮一邑
素稱衣冠文物之邦、其俗也禮樂教化、其文也詩書
春秋、夫何邪匪外降、而是倭臣留亂、噫彼倭酋伺
隙策時、稱以開化、入搜中城、其所猖獗、可惡言哉、嗚呼
痛矣、昨年八月之變、至月既望、之詔、革我衣制之事、則
我頭髮之舉、古今天下寧有是乎、天地神明、寧不得赫
然震怒、會我榮彝之士、克自倡義、以討何況 皇天
不遺 貴陣在顧、豈非涸魚之水、枯苗之而不勝、欣抃茲
敢泣告、幸垂慈恩、河澤澤、俾此殘燼、之知一則報其君
父之讐、一則 安 社稷、千萬伏望 旨初三日

在朝鮮國元山港

日本領事館

石父為敬通事、惟我有明朝鮮一邑、素稱衣冠文物之
邦、其俗也禮樂教化、其文也詩書春秋、其島國之所
尊、久為中華之所敬、夫何邪匪外降、而是倭臣之禍
亂、噫彼倭奴伺隙策時、稱以開化、入搜中城、其所猖獗
之習、尚忍言哉、嗚呼 痛矣、昨年八月之變、至月既望、之
詔、革我衣制之事、則我頭髮之舉、古今天下寧有是
乎、赫々上帝明々、石土安得不赫々震怒、會我榮彝
之士、克自倡義、以討八城之士、不日燔燼、歷一代、災後習風
同驅、或思誠彼島倭之日、驚動貴國之人、故如是所
通、以此下暨、千萬幸甚、

石元港洋館大人前 秘通

同日

江原道沿岸各地ノ状況

新崎場ニ農ノ家屋四十軒程焼失セシハ頃日十七八軒程新築ニ商民ハ市ヲ閉キ農民ハ耕作ヲ為ス

通川ノ暴徒數千南ヨリ来ルトノ以テハ民不安ノ状ヲ見ル

額白浦ノ暴徒ナシ

高城ハ民心不安ノ模様アレハ日本軍艦行域ヨリ兵ヲ上テ以テ説クニ依賴ニ稍安堵ノ状アリ

杆城ノ暴徒三十人ナリ拓リ大將之ヲ引率スエ民ノ諷ニ轉ニ皆冒日地ニテ北行ニ通川額谷安田德澤元山ヲ攻撃スルトノ説アリト云フ

森湖湖國元山港

日本領事館

襄陽ニ暴徒三百ナリ拓リ大將之ヲ率エ向テ計畫ヲ為ス農民ハ幸ナシテ耕作セリ

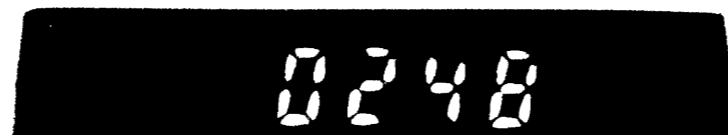
江陵ニ約七八百ノ暴徒在リ襄陽同大將ノ官兄某之ヲ率ヒ此等ノ糧食ハ熟モ土地ノ富厚ヨリ徵稅此等ノ目的計畫如何ナリ

京元間通路各地ノ状況

鉄原平原金池金城淮陽壽ノ各地ニ目下更ニ暴徒ヲ見ス唯以上ノ各地ハ前ニ暴徒在集ノ處ニシテ暴行ヲ呈ス財物ヲ擄ノタルヲ以テ良民ハ今其被害ヲ歎スルモノヲ云フ

京元間電線破壊ノ模様

鉄嶺以南金城巨ノ電桿ノ代斷ヲ認ムルノモニシテ一本モナシ高山附近ニ處々ナキ處ヨリ新龍池段ノ附近ニテハ



三水程ナレ南山ノ南約千里程ニ七水千ノナレ把撥洞ノ處
三四本千リナレ

威鏡道北郡沿岸概況

吉州北青同ハ先ツ千種ニテ南部ハ四着ハ故障ノナク輸
送セシムル由

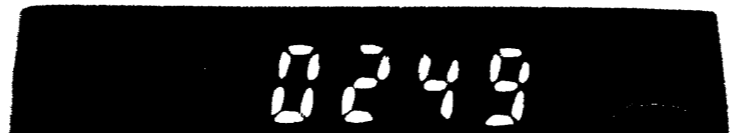
瑞川ハ時年皮大豆ノ輸出ヲ禁セヨリ昨今ハ年皮ノ禁ヲ
解キ大豆モ夜ニ禁セヨリ積ムルモノアル迄ナレハ進ニ復旧ニ至
ラント云フ

威興元山間ニ表面上異状ナキモ裏面ニ程テハ然ラスト云フ
ミテ精確ノ情況探知スルヲ得ス新任觀察使金路成ハ
旧制星守ニ義ニシテ民望ヲ博シ又此程北向ノ宣諭使
李鐘健モ同ニ義ナルヲ以テ昭露歡迎ヲ受ケタリト云フ
要スルニ南北共目下ノ形勢前途ノ如クナレハ自然千種ニ

在朝鮮國元山港

日本領事館

歸セシムト判新ヤラルニ尚冥情ヲ確查セシ為ノ南北西面
偵察ヲ派遣シアルヲ以テ更ニ報告ス可シ



要再廻

明治二十九年五月九日達濟

電報掛



淨書
廿九年四月二十日發達

明治二十九年四月九日起草
同年五月九日發達

主任

通商局長

第二六〇號

政令紀要

外務大臣特許署名

内務大臣、各府大臣、各縣長官、各市長官

(但官内大臣を除く)

朝鮮國北嶽地方、情況ニ付、外務大臣、在元

外務省

山二官二官、領事、各、知事、各、知事、各、知事、各、知事

右寫字、各、知事、各、知事、各、知事、各、知事

要再廻

七三一

明治廿九年五月九日 起草
同廿九年五月十一日 發遣

主任

通商局長

親展

外務大臣 陸奥宗光

内閣總理大臣 伊藤博文

外務省

朝鮮國南部暴徒、巨魁 閔龍鎬 等 露公使

及 外務大臣 陸奥宗光 等 露公使

二 台 二 号 領 事 官 在 寫 字 館 等 處 為 係 系 在 內

外務大臣 陸奥宗光

外務大臣 陸奥宗光

廿九年五月十九日接覽 主普通商局

公第 七十八 號

東京同陸路兩通ノ件

第 五〇三〇 號

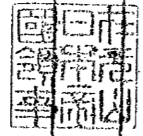
大臣 次官

過般來東京同陸路兩通ノ件ハ暴徒ノ為メ絶塞ノ処暴
 徒狀勢進ニ減殺ノ障垣相見ハ路情況
 暴徒五月二十六日東京同陸路兩通ヲ差支居処暴
 徒故障ナク同年五月廿一日東京同陸路兩通
 ノ折讓ニ據ルハ東京同陸路兩通ニ暴徒ヲ見ス韓人ノ往
 來ハヤシモ差支申シ外國人モ由ラ奉ルニ通行セハ別ニ
 故障ナカラント思ヒ居モ奉ル廉府三十名韓人信義
 輩集合セシ處今度政府ヨリ官兵ニ取立テテ右
 訓練ノ為メ士官一名京城ヨリ奉府ニ付同地人民中
 訓練隊ハ斬髮ヲ裁シテテ折將ノ戎器并洋銃ヲ
 改ニ修繕ハ自國警護ノ兵ニテテテ外國カ地日當
 國權領ノ為メ養成スルニ外ナラズト認信候モリ候旨
 之類ニ候

又金城ニ一種ノ暴徒集合ニ指リ此ハ江陵ノ暴徒
 上味ニテ相應ニ勢力有リ由ラ以テ政府ハ勅討ノ為
 訓練隊ヲ派遣シ現ニ右市街ハ全地同所ニシテ
 リト申候候尚江陵邊ハ此程旧案ヲ出シ至候旨
 右報告候候旨

五元山

明治三十七年五月十四日 二奉仰奉ニ口義久
 外務大臣 敬啟



水通

在朝鮮國元山港本日領事館

廿九年六月八日拜覽

主官通商

公第 七十四號

五八九三

江陵附近須察報告、
本月初十日、
陸路兩通、併、
遣ニクニ旨、
調陸、
此段申、

五元山

明正二十九年七月二十七日、
中務省、

敬啟

廿九年六月十八日記録課授

5-1310

0253

筆録書

問 其許ノ住所姓名ハ如何

答 元山居住塚景三ナリ

問 江原道目下ノ情况偵察トシテ安張ラセシムルガ何月何日ニ安張セシ

ヤ

答 韓曆三月十九日 (日本五月一日當リ) 元山ヲ安張セリ

問 十九日ハ何處ニ宿泊セシヤ

答 咸鏡道安邊ノ長津ト云フ處ニ宿泊セリ

問 其長津ト云フ所ハ人家多ク所カ又其土地ノ動靜ハ如何

答 井戸位ニテ多ク農業ニ從事トシテ至テ平穩ナリ

日本領事

問 其近傍人民ニ於テモ海ヲ平穩ニ各其業ヲ営ミ居リヤ

答 至テ平穩ナリ

問 廿日ハ何トシ泊リシヤ又其土地ノ情况ハ如何

答 江原道歙谷郡ニ泊リシ此處只今ニテ先ヅ平穩ニテ各農業其地

ノ業ニ從事シ居ルモ若シ又暴民ノ未戢アリハセヌカトノ掛念アリテ多ク

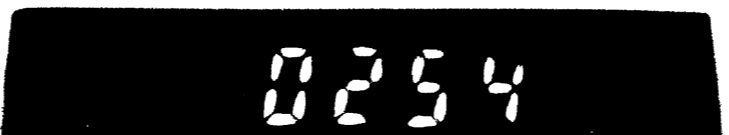
人心ニ恐怖ノ模様アリ

問 廿日ハ何トシ泊シ又其土地ノ動靜ハ如何

答 江原道通川ニ泊リシ此處ハ多數人家アル處ニシテ只今ハ先ヅ平穩

ナレバ是又歙谷ト同シ又又暴徒ノ未戢アラハ必ズ暴行ヲ蒙ラン

故ニ若シ暴徒再来ノ日ハ日兵ノ保護ニアラズシテハ其害ヲ免カシ難シ



云々官民共ニ之ヲ鳴ハ居レリ

問然ラハ通川ハ日本人ニ同情ヲ表スル為ノ暴民ヲ特ニ惡ムト云フ様ニ譯シ
ルカ持々暴民カ再未タ又其善ヲ蒙ルト云フニ過キサルヤ

答前段日本人ニ同情ヲ表スル為ノト云フニアラス自然其善ヲ蒙ルト云フ
ニ過キス

問廿二日ハ何レニ宿泊シ又其土地ノ動靜ハ如何

答通川ノ頭白ト云フ所ニ泊シタリ斯邊ノ民情モ通川ト要ラス

問廿三日ハ如何

答長箭浦ニ泊シタリ此地ノ模様亦通川歙谷ト異ラカモ暴民再
来錢穀牛馬ノ募集持奪ヲ恐レ富人ノ多ク其賊ヲ携ハ安

ニ移住シ其善ヲ避ル有様ナリ歙谷通川ノ富人モ亦然

問歙谷通川長箭等ニ折々暴民出沒スルカ

答否暴民ハ江陵ヨリ高城ヲ限リ各地ニ出スルモ高城ヨリ此處ハ更
ラニ来ラズ暴民ノ常ニ唱道スル處ニヨレバ再ヒ元山ヲ襲撃スルノ日ハ
通川ヨリ元山マテ其住民ヲ慘害スヘト云ヒ居由リ

問廿四日ハ何レニ泊シ其土地ノ情況

答高城ニ泊シタリ此地ニ高城ノ産ニ召募官(是ハ暴民
自稱官名)権學英(此景)ニ
者六十餘名ノ暴徒ヲ率ヒテ屯在シ人民ノ牛馬及金剛山僧侶ノ錢

穀ヲ剽掠シ郡守供宗憲ニ暴民ノ威勢ニ勝テ官廳内ニ執伏
シ公私用務ニ一ハ凶徒ノ任意ナリ故ニ居民農商ノ業ヲ作ス能ハズ

心恟々たり又近日誰陽より暴徒數十名鎧鎧ヲ携り(鎧鎧皆大鎧鎧)此地を
リクリ且高城ヨリ江陵ニ到ル途行旅人及荷物取調ヲ為ス

問廿五日ハ何所ニ泊リシヤ

答廿五日ハ杆城ニ泊リシリ此地ニモ暴徒二十余名屯集シ通行人ヲ改
ノ專ラ郡ヲ守リ居ル様子ニテ郡守ハ已ニ遁逃セリ又暴徒ハ召募
官ハ朴某ナリ

問廿六日ハ如何

答杆城郡下清澗ト云フ海岸ニ泊リシリ此地ノ情况ヲ視ルニ民情ノ當時
ニ在リテ別段騒々敷模様ナキモ兵暴徒ガ再舉元山ヲ蔽了
日ハ又々其剽掠ヲ蒙ルナラント憂慮アルモノ、如シ目下各其業

ヲ官ニ居リ獨リ此地ノミナラズ高城郡ニテモ郡衙所在地ニ暴徒
在スルニシテ其他一名モ屯集セズ

問廿七日ハ如何

答廿七日ハ襄陽郡衙ノ所在地物市ト云フ所ニ泊リ此地ニ暴
徒二十余名郡ヲ守リ召募官ハ李某ナリモ郡守ハ已ニ遁逃
セリ此地ハ大ニ市場ナリ暴徒屯集ノ為メ商業廢絶ノ状ニシテ
居民皆ナ困難ノ模様ナリ

問廿八日ハ如何

答江陵郡注文津ト云フ海邊ニ泊リシリ此地ハ多ク旅舍等在リ
地ナレバ暴徒一件ニ付通行杜絶シ營業者皆ノ生活ニ苦シ有

本行ニ下ニ
何トクノ事ナ
カ

様ナリ此郡ニ暴民ノ巨魁関龍鎬(廿九歳)ナルモノ御産ノ忠實
 族ニシテ頗ハ威權アリ其次ニ権益賢全監察(今監察)トス其下
 ニ呂易官ニ三名書記ニ三名暴民五六百名アリ(訛信ニテ千金名ト
所更ナリ)
 稱ス帝ニ刀鎗ヲ造リ兵服ヲ製シ此處ニ暴民ノ根據地ニシテ唱
 義所ト稱シ兵ヲ募リ軍備ヲ爲シ四月廿日(日本曆六月
一日)再舉元
 山ヲ襲ント聲言シ居ル由ナリ

問 昨九日如何

答 昨九日誼文津ニ滞在翌三十日今所ヲ發足シ他元山ニ歸ル路ナ
 キ故再々元ノ路ヲ過キリ昨日即々四月五日ニ元山ニ歸リタリ(日本曆
五月十日)

問 歸途別段前ニ通行シタル各所ニ於テ異状ナリヤ

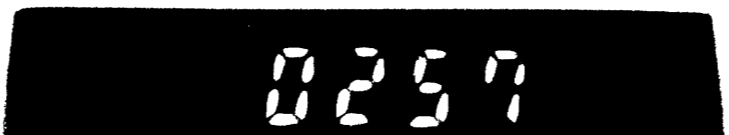
答 歸途別段前疎ノ外ニ異状ナリシガ春川ノ暴徒五名全剛山ニ東
 リ韓錢五十貫文ヲ奪ヒ去ル處ヲ高城ノ暴徒カ之ヲ追テ其五十
 貫文ヲ更ニ奪取り去ル由ヲ聞ケリ

問 然ラハ通行シタル各所ノ擾攘ニモバ元山ヨリ通川長箭邊マテハ暴

民一名モ居ラス高城郡ヨリ向ア方ニ暴民各郡ニ在リ郡守ハ高城
 ヲ除ク外ハ皆ナ何レカ遁亡シ居リ暴民ニ於テ政事ヲ取行ヒ在ハテ
 ニ似タリ果シテ然ルカ

答 真ニ通リナリ

問 通行シタル各地ニ於テハ日本人ニ對シ暴民以外ノ良民ハ如何ニ



感情ヲ有シ居ル模様ナリヤ如何

答嚮キニ新坪場ノ戦争前ハ良民モ暴民ニ耶カ加擔ノ傾キアリシモ新坪場ノ戦争余名ノ暴民カ日本兵百五十余名位ヲ打負ケタリヨリ以來暴民ノ頼ト足ラサルヲ知リ今ニテ暴民ニ同情ヲ表スルモノ無キ有様ナリ

問暴民ハ何レヨリ集リ居ルヤ

答其ハ今江陵ニ居ル巨魁関元江原道提川(江陵以西ナリ)ノ産ニ

今現ニ率ヒタル暴民ハ多ク関カ提川ヨリ率ヒ来リタルト又

夕江陵ノ産前記權益既ノ暴集シタル者共ナリ

問日暴民ノ再ニ襲来スル果シテ事實ラシキヤ又虚勢ラシキヤ

答自分ノ考ルニ虚勢ナラント信ス夫ハ何故トハ彼業カ鉄

穀ヲ募ルハ心ヲ元山襲撃ノ材料ト云フ故ニ元山襲撃ハ鉄穀

ニ募徴ノ口実ニ過キカラシキ

問江陵ニテ往復中ハ定メテ暴民ノ為ニ取調ヲ受ケル事アラシカ其模様如何

答自分ハ此行ト々々書冊ヲ携ヘ學者ノ模様ニ疑ヒテ通行シ

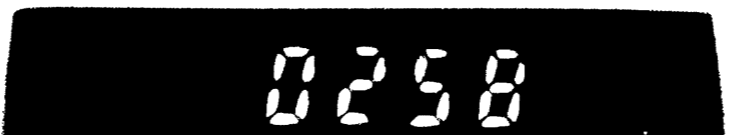
各所ニテ暴民カ取調スルニ汝ハ元山人ハアラサレヤト問フ故否自分ハ

學者ニテ永興人ナリト答ヘタルニ具保通行ヲ許シタリ彼シカ取

調ノ要ハ重ニ元山商人ニシテ其目的ハ日本人ト共同商業ヲ為スニ

ノナラント疑フ以テ之ヲ取調ニ元山人ニシテ商業者ナレハ直子ニ其

本行ニ
字加フ



其荷物ヲ押収セラル由是日本人ノ商業ヲ廢セントスルモノナラ
シカ

問各所ニ居ル暴徒ハ兵器ヲ携帶シ居ルヤ

答皆銃鎗等ヲ携ハ居リ

問江陵ヨリ先キノ模様ハ聞カサリシヤ

答江陵ヨリ先キハ暴徒ニ居ラズ先ツ江原道中暴徒ニ居ル慶海

岸ニ高城ヨリ江陵ニテ又嶺西地方ニ搜川春川驛蹄邊ニ

多ク屯在セリト

以上

明治廿九年五月十八日

於元山領事館

送第三九〇號

第九年七月九日發覽

官通商局

公第八十九號

第九年七月廿五日發覽

次官

高業松果下殿
スル中丁印
シ先部分受報
了通商東業

内件

軍艦高雄威鏡造出部沿岸航出航ノ件

本年二月以來本國内地一帯ノ不穩ノ爲ニ我商
民内地ノ商一取ニ差止メラレテ其ノ憂志自
中句ニ後靜謐ニ歸シタリト認メラレタル地方ニ
リ舊ニ仍リ以高業松果下殿ノ日者銀ノ於テ其
買各地ノ情況如何傳テ遂ニ模様ノ傳リ
高業松果下殿ノ取存ニ止メ具狀傳テ通リ
折角種々ノ方便ヲ以テ偵察ヲナシテ其ノ何
分確乎タル情況不不知ク一取ニ軍艦高雄當又
威鏡造出部沿岸航出航及露韓陸路貿易
地タル慶貞府視察ノ義同艦長ヨリ右述有
之由ニ付豫テ申進置キ其ノ意ヲ以テ其銀ヨリ

高業松果下殿出航高業松果下殿ノ視察
員一名松果下殿ノ招議ヲ遂メ本年九月廿
日威鏡造出部沿岸航出航ノ各沿岸ノ航
同十日回航其艦長ノ談話ニ據リ本南航出航
ノ時ト同様兩多ク露源ノ殊ニ回航路ノ海圖不完
全ナルヲ以テ豫テ其ノ意旨ニ航ヲ以テ其ノ意旨
ナレバ鏡城陽化点ノ航路調査其他露韓地ノ情況
一取ニ視察スルニ付タルヲ以テ大ニ便スル計アリタリト
事ニ其詳細ハ別紙高業松果下殿ノ報告書及
高業松果下殿ノ派員報告ニ就キ其ノ意旨
申渡シ其具報ヲ敬具

明治廿九年六月廿六日

二等領事二口美久

外務次官小村嘉平郎殿



北
関
巡
回
復
命
書

在
朝
鮮
國
元
山
港

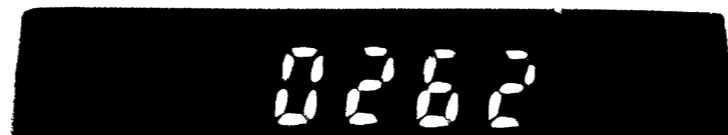
日
本
領
事
館

5-1 3 1 0 |

0261

復命書

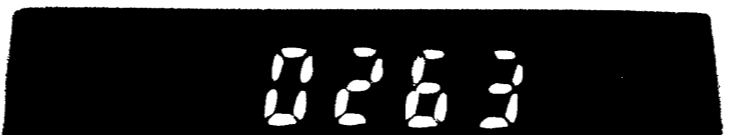
明治二十九年六月九日帝國軍艦高雄當
 道北部沿岸視察ノ為メ解纜スルヲ以テ
 全艦ニ便乘暴徒ノ情勢等視察ノ命ヲ奉
 シ左日出帆先ツ咸興府管下ノ退潮北青
 ノ新浦新昌利原ノ遮湖端川ノ沙津吉州
 ノ城津鏡城ノ陽化ヲ經テ豆満江ヨリ慶
 興ニ抵リ露朝陸路貿易ノ景況等ヲ視察
 スルノ考ナリシモ奈何セン時恰モ梅雨
 ノ候ニ際セルヲ以テ濃霧殊ニ甚シク陽
 化ヲ登レ豆満江ニ向ヒタルハ殆ント
 咫尺ヲ弁スルヲアタハス洋中ニ漂フ
 二昼夜余ヲ費シタリシモ快晴ヲ見込
 ナク不得已航路ヲ轉シテ帰元スルト
 ナリタリ且今田ノ廻航ハ寄港中モ僅カ
 ノ碇泊ナリレヲ以テ充分ナル要領ヲ得
 ス加フルニ昨二十八年春季全沿岸ノ視
 察ヲ了リ土地風俗及産物等ハ其當時既
 ニ取調ノ上報告シタルモト毫モ異動
 ナキヲ以テ茲ニ略シテ備載セス然レモ
 到ル處ノ各浦口ハ一々上陸シテ村長又
 ハ問屋等ニ就キ重ニ暴徒ノ動靜ヲ主ト
 レ傍ラ高況ノ概畧ヲ取調タリ
 翌七日咸興管下ノ退潮(俗ニ馬口味ト稱
咸興ヲ距ル五里)ニ投錨ス
 土地ハ户数三百余魚夫ト農商相半セル
 一村落ニシテ市日ハ四九(舊)當日ハ恰モ



市日ナリシヲ以テ各地方ヨリ市場ニ群
 集スル者千ヲ以テ数フルニ及ヘリ咸興
 府ヨリ来リシ者モ亦少ナカラサリシヲ
 以テ全府民ニ就キ暴徒ノ動静ヲ窺フニ
 咸興ハ元来人民猛悪ニシテ從來ヨリ日
 本人ニ對スル感覺宜シカラス常ニ倭奴
 ト罵聲ニ輕侮スルノ傾キアリシニモ拘
 ハラス今回政府施政ノ方針一変シタル
 結果ハ一トシテ日本人ノ煽動ニ出サル
 モノナレト誤解シ殊ニ激昂シタル原因
 ヲ云ハハ咸興府ハ當道第一ノ首都ニシ
 テ觀察使ノ下ニ從來數百ノ屬吏アリシ
 昔ヲ全廢シタルヨリ依然旧觀ニ安ンセ
 ンコトヲ企圖シ憤然結合シテ春川江陵ノ
 暴民ニ氣脈ヲ通シテ排斥論ヲ唱ヘ一時
 ハ勢力甚タ猖獗ナリシモ今ハ稍鎮靜ノ
 姿トナリタリ然レモ未タ日本人ヲ疑フ
 者多忌嫌スルコト甚シ且義兵ナル者ハ
 皆咸興住民ナルヲ以テ若シ全府ニ到ラ
 ハ如何ナル変事ヲ惹起ヤモ保シ難シト
 云ヘリ其他利原端川ノ兩府ニモ一時咸
 興府民ニ共ミセシモノ四五十名ワ、此
 集セシコトアリシモ今ハ何レニカ逃散シ
 テ隻影ヲ見スト其他ノ浦口土民ノ状態
 ヲ察スルニ一般ニ平穩ニシテ商民等ハ
 及テ我行商者ノ一日モ早ク到ルヲ俟ツ

在朝鮮開元山誌

日本領事館



ノ 操 様 ア リ 目 下 新 浦 沿 岸 附 近 ニ 出 漁 中
ナル 我 漁 船 六 七 艘 停 泊 セ リ 乘 組 ノ 漁 夫
ニ 逢 ヒ 土 地 ノ 操 様 ヲ 聞 キ シ ニ 一 日 鏡 ヲ
携 ヘ タ ル モ ノ 三 名 来 リ テ 出 船 ヲ 促 セ シ
ノ ミ ニ テ 別 ニ 妨 害 ヲ 加 エ ス 何 レ ニ カ 立
去 リ タ リ 而 シ テ 沿 岸 出 民 ハ 至 テ 丁 寧 親
切 ナ リ ト ム フ 然 レ ト モ 其 深 意 何 レ ニ ア
ル ヤ ヲ 探 リ 知 ル 丁 能 ハ ガ レ ド モ 外 面 上
實 際 租 暴 ノ 舉 動 ヲ 見 ス 若 シ 内 地 深 ヲ 侵
入 シ タ ラ ン ニ ハ 或 ハ 如 何 ナ ル 妨 害 ヲ 受
ク ル ヤ モ 因 リ 知 ル 可 ラ ス ト 雖 氏 惟 フ ニ
唯 海 路 ヲ リ 咸 興 府 ノ ミ ヲ 避 ケ 各 沿 岸 浦
口 ニ 限 リ 往 来 ノ 如 ク 行 商 ス ル モ 最 早 危
險 ノ 恐 レ ナ カ ル ベ シ 殊 ニ 新 浦 以 北 ノ 土
民 ニ ア リ テ ハ 浦 塩 斯 德 ニ 通 商 又 ハ 出 稼
ス ル モ ノ 年々 増 加 シ 今 ヤ 毎 年 陸 路 ヲ リ
海 上 ヲ リ 該 地 ニ 向 フ モ ノ 實 ニ 其 數 數 百
名 ナ ル ヤ ヲ 知 ラ ス 如 此 キ 有 様 ナ ル ヲ リ
自 然 ニ 露 國 人 ヲ 尊 敬 シ 亦 中 ニ ハ 西 洋 夏
帽 子 ヲ 戴 キ タ ル 土 民 ヲ 見 受 ケ タ リ 以 等
ハ 皆 浦 塩 斯 德 ヲ リ 帰 リ タ ル モ ノ タ ル ヲ
知 リ 得 ベ シ 若 暴 民 等 出 沒 セ バ 土 民 ニ シ
テ 帽 子 ヲ 冠 リ 通 行 ス ル 丁 ナ カ ル 可 シ 此
等 ノ 莫 ヲ リ 推 考 セ ハ 實 際 暴 徒 ノ 居 ラ サ
ル 及 証 ト ナ ル ベ シ

露 國 軍 艦 入 港 元 二 測 量 ノ 件

在 朝 鮮 日 元 山 港

日 本 領 事 館

新浦ニ於テ閑ク處ニ依レハ本年四月三日露國軍艦三隻入港三日間停泊シテ湾内ノ深淺ヲ測量シ或ハ夜間上陸シテ幾火信號ヲナセシコトアリシニ同月二十五日ニ至リ亦三隻來泊シテ前同様頻リニ測量セリト又本年解氷以來露國軍人数名陸路浦塩斯德ヨリ京城ニ向ヒ通過セシモノ数回其外鏡城明川吉州端川甲山地方ニ於テ測量セシモノ数名アリシト云フ

清人行商ノ件
 甲山府ニハ昨年来清國人数十名入来リ無法ニモ鑛山ヲ採掘シ或ハ伐木シテ鴨綠江ニ下シ水路持チ去ル丁數多アリシモ地方官ハ夫等ノ不法ヲ咎ムル丁ナク殆ント袖手黙々清人ノ為ス所ニ任セシガ漸ク現今ニ至リ初メテ政府ノ知ル所トナリ之ヲ嚴禁シテヨリ今ハ犯スモノナク行商者ノミ絶ヘス數十名各邑ニ通行シ金巾其他ノ雜貨ヲ販賣セリト而シテ土民ハ一般ニ大國人ト稱ハテ畏服シ居リ甚ダシキニ至テハ敬意ヲ表シ至極丁寧親密ナル交際ヲナスト例ケリ

商業概略
 新浦ハ北部沿岸ノ中心点ニシテ前面ニ馬養嶋ヲ控ユ良湾ヲ成セリ當地ハ水陸

在朝鮮國元山港

日本領事館

共ニ貨物運輸ノ要衝ヲ占ムル屈指ノ市場ニシテ諸貨物ノ集散地トス殊ニ明太魚ノ産地ニシテ商業頗ル旺盛ヲ致セリ本年北関一般ニ於テ捕獲シタル明太魚ノ總額ハ三萬駄此代價五拾壹萬圓内ニ万駄ハ己ニ元山釜山其他各地ニ輸送シ今尚一万駄ハ附近ノ浦口ニ露積シアリ一駄ノ價十七圓ナリト云フ
 大豆牛皮ノ類モ到ル所ノ農家商民共ニ藏蓄スルモノ少シトセス然レトモ暴民蜂起以來行商者ノ足跡ヲ杜絶シテヨリ全ク運輸ノ便ヲ缺キ只賣口アルヲ待ツモノ多シ若シ夫レ此際行商者ヲシテ各地沿岸ニ到ラシメ以テ購買セレモンニハ巨額ノ輸送蓋シ容易ノ業ナラン乎牛皮ハ目下鰯魚ノ季節ナルヲ以テ相場頗ニ下落セリト云フ
 又沿岸地方ニ北ケル外國輸入品ノ順序ヲ云ハハ先ツ當元山港ヨリ吉州附近迄ハ元山ヨリ供給レ而レテ吉州以北ハ重ニ浦塩斯德系ニ清人ノ供給ヲ仰クが故ニ吉州以北ノ高利ハ皆彼等ニ奪ハレタルモノ、如シ殊ニ暴徒蜂起ノ為メ汽船航行ノ度数減少シタリシト他ハ行商者ノ販賣力ヲ失シタルヨリ商業上甚カラサル損害ヲ自國ニ招キ并セテ影響ヲ外

朝鮮元山港

日本領事館

國貿易ニ及ボセシハ甚モ疑ヲ容サル所
ナリ現ニ諸貨物共ニ欠乏ヲ告ケ隨テ價
格ニ稍騰貴ヲ来セリト云フ
當地ニ於ケル商品ノ相場ハ到底其詳細
ヲ知ルニ由ナキモ其大体ヲ知ルノ便ニ
供センカ為ノ尤ニ之ヲ掲ク

輸入品相場

一義源	一及	五田三十弍	日韓印	一及	五田十弍
帛印	一及	四田四十弍	寒冷紗	一及	一田二十弍
石油	一函	三田六十弍	甲斐絹	一疋	四田二十弍
食塩	一俵	八十四弍	安摺付木	一函	四田
			日本水綿	一函	一田五十六弍
			仲上		一田二十弍

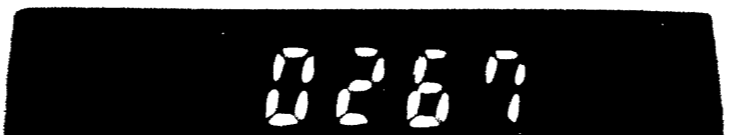
朝鮮産相場

明太魚	一駄	十七田	沙金	十匁	四十二田
晋木	一疋	一田五十四弍	羅木	一疋	一田四十弍
大豆	一俵	一田四十四弍	牛皮	二百斤	十七田

浦塩斯德ヨリ輸入品

金巾	一及	五田	綾金巾	一及	四田二十弍
名摺付木	一函	三田二弍			

近來輸入スル日本水綿中伊豫ノ松山ニ於
テ晋木ニ模造製織シタル水綿ハ地質緻
密ニシテ強靱良好ナルヨリ土民ハ細木
或ハ日本晋木ト稱シ稍嗜好スルニ至リ
テヨリ販路漸ク大ニ将来有望ノ商品ト
ナレリ自今當局者タルモノ益改良増進
ヲ図リ以テ粗製品ノ輸入ヲ防キ信用ヲ



失セサルニ於テハ漸次需要額ヲ増加スル
 ニ至ル決シテ望外ノ事ニアラス
 摺付木ハ重ニ危険マツテ使用セリ是
 レ全ク焚火シ易キ便アルニ因ル浦塩期
 徳ヨリハ怒テ危険マツテ輸入ス
 ト云フ
 本邦人朝鮮人ノ名義ヲ以テ風帆船ニテ
 不閑港場行商ノ件
 北青ノ新昌ニ於テ朝鮮國旗ヲ揚ケタル
 西洋形風帆船一隻停泊スルヲ見受ケタ
 リ依テ全船ニ至リ見ルニ釜山寄留我商
 人竹鶴直次郎ナルモノ乗組居リ搭載シ
 来リタル食塩其他木綿等ヲ販賣シ其賣
 揚金ヲ以テ明太大豆若芽昆布ノ類ヲ買
 取レ回航スルヲ述ヘタリ全人ノ言ニ
 ヲレハ本年三月一田ノ往復ヲ試ミタル
 ニ二十余田ノ純益アリシヨリ南岸ノ往
 復ヲ中止シ更ニ引續キ釜山ヨリ直接北
 関トノ航海ヲ初メタリト云フ釜山商人
 ニ於テハ己ニ早ク如此機敏ナル航路ヲ
 開キテ實利ヲ博セルニモ拘ハラズ當港
 商民ハ徒ニ袖手傍觀以テ斯ル洪利ヲ教
 百里外ノ釜山商人ニ壟斷セラレ惜トレ
 テ顧ミルモノナシ豈ニ遺憾ナラスヤ試
 ニ之ヲ當港ヨリナスモノト仮定セヨ日
 子ヨリ云フモ亦費用ヨリ云フモ蓋シ同

在朝鮮國元山港

日本領事館



日ノ論ニ非サルヤ明ナリ何ントナレハ
釜山ヨリ當港ニ來ルニモ數日ノ日子ヲ
要シ後テ費用ノ増加ヲ來タシ加フルニ
當港前洋ヲ通過シ更ニ北進シテ元ノ
利純ヲ得ルニアラスヤ若シ夫レ當港商
人ニシテ全様ノ手段ニ依リ以テ往復ス
ルトセシカ巨離ノ小ナルハ以テ數度ノ
往復ヲ重ヌルノ便アリ後テ釜山ヨリス
ルモノニ比シ一層ノ利益ヲ見ルヲ得ヘ
キハ毫モ疑ヲ容レサルナリ

耕作

當道ノ地勢カハ一般ニ丘陵起伏シテ平野
ナク各地到ル處皆山峯丘岡共ニ石骨岬
々トシテ閑濶ナル地ナク隨テ耕種ノ
便ナラサルヨリ水田ヲ見ル誠ニ稀ナル
カ故ニ米穀ノ產出少ク偏ニ忠清全羅慶
尚三道ノ供給ヲ仰ケリ畑圃農産物ハ僅
ニ大豆小豆粟黍稗麥ノ類ヲ耕作スルニ
止マレリ目下雜穀類植付アルモ季節到
ラサルヲ以テ其豐凶ニ至テハ未ダ豫ソ
窺知スル丁アタハス農家ハ皆雨ヲ祈ル
ノ有様ナリシ
昨年北閩各地ヲ視察セシ片ハ倭奴ノ罵
聲耳朶ニセシノミナラス中ニハ幾ント
暴行ヲ加ヘントスル如キ丁アリシモ今
度ノ巡回中ハ前年ニ及シ罵詈スルモノ

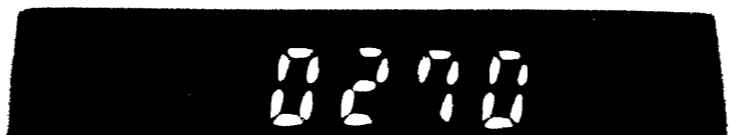
本報新聞

日本新聞

ナク寧口尊敬スルノ意アリテ丁寧ニ問
フニ答ヘ中ニハ変事ノアラシクテ恐レ
平和ノ手段ヲ取ラレシムラシクテ者アリ
タリ是全ク帝國軍艦ノ餘光ニシテ衆皆
畏服シタルニ職由ス殊ニ鏡城陽化ノ如
キハ何國人ナルカヲ識別スルヲ能ハサ
リシ如此無智ノ由民ヲ開化ニ導キ亦一
方ニ於テ威カヲ示スニ於テハ安全ニ行
高スルヲ得ヘキヤ必セリ依テ爾來時
々軍艦ヲシテ沿岸各地ヲ視察セシムル
ハ實ニ必要ト愚考致候
右及復命候也

明治二十九年六月二十五日領事館書記生高雄謹三

二等領事二口義久殿



咸鏡道北部各港商況視察報告

元山商業會議所

在朝鮮國元山港 日本領事館

5-1 3 1 0



退潮

退潮ハ咸興領ニアリ一馬口味ト称シ戸口三百餘海辺ノ寒村ニ
過キス産物ニ鱒鯉アリ比隣各邑西湖ニ四里咸興ニ五里洪京前津ニ五
里而シテ其通路孰レモ峻悪ナラサルナシ

此地漢家十五船十隻高ヲナスモノ無教他方物産ヲ購ヒ来リ之ヲ元山ニ運賣
スルヲ業トス土地ノ産物少キヲ知ルヘシ從テ他方商人ノ入り込ムモノ少ク客主亦自
ラ大ナルモノ莫シ月四九ノ市アリ近村ノ人集リ来ル

ムルゲニ於テ日本漢船ニ隻ニ逢ヘリ

此附近ノ地ハ物情鎮靜ナリト云フ

新浦

新浦ハ元山ヲ去ルテ海路八十哩北青領内ニ在リ馬養島其前面ニ横ハリテ
海水東西ニ通ジ東口西口共ニ大艦ヲ進ムヘク湾内亦安全ニシテ風波ノ難ナシ

在朝鮮國元山港

日本領事館

戸敷三百高車繁盛元山以北茅ノ良港ナリ附近各邑洪京五里半北
青六里強新昌六里遮湖土里ナリ

新浦ハ其一方ニ偏在シタル割ニハ附近ニ多クノ市場ト許多ノ明太産地トヲ
控、從テ他方人ノ来高スルモノ多ク商業ノ繁華ヲ致セリ即チ市場ト

シテハ連無場(新浦ヨリ一里。一六ノ関市ナリ)アリ揚花場(新浦ヨリ二里。ニ七
ノ関市ナリ)アリ洪京場(五十ノ関市ニテ新浦ヨリ五里)アリ物品ノ賣買頗ル盛

大ヲ顯シ又明太産地トシテハ陸埴(此地ニ多ク咸興人ノ經營ニ係リ其毎年ノ捕漁
額亦頗ル夥シ)ニ一里揚花ニ二里、厚利津ニ二里、羊、榆湖ニ三里而シテ孰モ比其

浦獲セシ所ヲ新浦廻送シ之ヨリ更ニ元山ニ致ス丁年来ノ例ナリ是以テ新浦
客主ノ手ヲ經ル所ノ明太魚其額年々ニ千駄ニ下リタルナリト云フ

此地ニ於テ稍々信用アル客主、黃都事、李秉洙ノ二人ニ過キス之ニ次クモノ
高鼎ニナリ商人中商ト称スヘキモノ先ツ五十名是等ノ中ニ元山釜釜山ニ出テ、

仕入及放賣ニ從事スルモノ少ナカラス又別々、裨商三十餘名アリ各々四五十貫ノ



資金を以テ諸所ノ市場ニ轉商ス漢民ハ全村十名ニ過キサレ共之カ部下ニ立テ使役ニ
 応スル所ノ人夫ハ彼是ト二百名ニ餘ルハレ對岸馬辰島在住千餘ノ島民亦多ク漢
 業者クハ舟運ノ役夫ヲ常業トスルモノナリ

当地尙屋ノ口錢ハ木綿百疋ニ付一貫二百文明太一駄ニ付五十文金巾一疋ニ付三十文大豆一
 俵ニ付四十文其他ハ大抵之ニ準スルナリ而シテ其物品賣買未済ノ間ニ在テ尙屋
 主人無手数料ニテ其係管ノ責ニ任スルヲ勿論ナリ

人足價ハ明太一疋一圓ニ付荷造賃七文運送賃五文解舟賃十文ト共朝鮮船ヲ以テ元山ニ運送
 スルハ只荷造賃ノミヲ要シ解舟及運送賃ハ之ヲ拂フニ及ハサルナリ又木綿一箇陸上
 價ハ概テ六十文ニテ即チ解舟賃五十文運送賃十文ノ割トナルナリ右レ汽船ノ類ニ朝
 鮮船ニ運送スルハ元山迄明太一駄ノ船賃凡三箇文内外ナルベシ

此地ニ於テ毎年集散元所ノ外物價ハ概畧左ノ如クナルベシト云フ

明太	二千駄	大豆	五千石	砂金	千匁	塩 <small>日本</small>	二万石
塩 <small>朝鮮</small>	一万石	牛皮	三万斤	末	三四千石	晋木	二百箇
日本木		二百箇		金巾	一万疋	寸燐	千箇
洋鈔	二千疋	紡績糸	千通	石油	三千箇		

附言 毎年輸出入ノ統計ハ他ノ各港ニ於テ一々得ル所ナク而シテ独リ之ヲ新浦

一港ニ得タリ然レ此統計モ亦朝鮮人ノ概算ニ區キガハ固ヨリ之ヲ確實ノ
 モノト信用スル能ハサルハ論ナキナリ

本年度新浦及其附近各村ニ於テ捕漢トシル明太総額ハ概テ三千駄ナルヘキモ其大半
 ハ汽船積或ハ韓船積ニテ既ニ之ヲ南方ニ輸送シタレハ方今ノ残額ハ周ク四隣ヲ尋テ元
 ストモ恐ク四百駄以上五百駄ヲ超ユルコトナカラン大豆ノ如キモ亦多クハ賣リ尽シ現ニ剩
 ス処近村ヲ合シテ二千石ニ止ルヘシ然レ共商況ハ四方貨客ノ弗々出入スルモノアルニ因
 リ未タ甚タ沈滞スルニモ至ラサル様様ナリ

農況亦現時ノ処ニテハ未タ作其他孰レモ豊年ノ見込ナリ

此地ノ度量ハ次ノ如シ

枳 巾四寸九分 長一尺一寸八分 深三寸八分 共ニ我金尺ヲ以テ計ル



尺木綿尺一尺ハ吾金尺一尺七寸七分ニ当ル
絹尺一尺ハ吾金尺一尺六寸八分ニ当ル

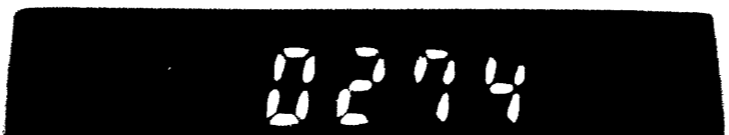
市價

大豆	一斗	五十五文	砂金	十匁	十九貫五百文
明太	一駄	八貫六百文	米	一斗	他米 二百文 他米 百八十文
塩	一俵	四百文	牛皮	百斤	自 六貫文 至 八貫文
晋木	百足	八十二貫文	日本木	百足	五十八貫文 五十五貫文
靈木	百足	七十五貫文	金巾	一足	二貫六百文
金巾	一足	二貫三百十文	洋紗	十疋上	五貫八百文
石油	一箇	一貫六百文	寸燐	一箇	二貫文
項羅	一足	二貫文	紅金巾	一足	一貫九百文
綾金巾	一足	二貫四百文	紙	一箇	七貫五百文
紡績絲	一箇	一貫五百文ヨリ 一貫七百文マテ	粟	一斗	百四十文
小豆	一斗	八十文			

右諸物貨中米塩ノ二品最モ賣好ク木綿類之ニ次キ紅金巾ハ時節
退キテ最モ賣悪シ、但シ同地ハ林十七斗ヲ以テ一俵トナヌ例ナリ

新昌

港形西南ニ開キ大湾ヲナセ共常ニ風浪ノ憂アリ唯岸上田野遠ク連リ南大
川ノ大江其中央ヲ貫キ兩岸坦々トシテ其府北青ニ達スベキ故ニ運搬頗ル自
在從テ新昌ノ商勢ヲ活動セシメリ市街ハ南大川ノ南岸ニ並ニ其戸數三百
許北青ニ四里新浦ニ六里遮湖ニ五里而シテ咸鏡道明太漢場ノ真中央ニ在リ
新昌其道路四通ノ利便ニ因リ其天然ノ好位地ニ因リ殆ト咸鏡中部貨物集散ノ
樞矣立ケ南ハ洪奎ニ至リ北ハ利澤端川ニ及ヒ西遠ク甲山三水ノ山道ニ掛ケテ其
商路頗ル廣ク商估ノ往來亦極メテ繁忙ナリ去レバ其賣買ノ媒々ヲ以テ巨業トナ
ス所ノ客主ニ至テモ外觀頗ル富裕トシモ其就中客主ト称スベキモノハ申初試
金先達尹道先ノ三人ナルベシ



此地ノ開市ハ毎月四九ノ日ニテ賣買頗ル盛大ナリ北青三八ノ開市亦之ニ讓
 ラストス市商人ハ殆ント五十名アリテ孰レモ相應ノ資本アルモノナリ又ハ人若クハ放
 賣ノ為ノ元山或ハ釜山ニ出商スルモノ三拾名アリ漢業家五十名舟人百五十
 名此舟人ト稱スルハ並テ物貨運送ノ諸勞働ニ就事スルモノトス又明太船百隻
 アレ共高船ト稱スヘキハ更ニ一隻モナク運送ノ業ハ凡テ咸興漢京兩地方人ノ膏手
 握ニ归シタル有様ナリ

当地ニ於テ汽船積スル片ハ明太一箇ニ付船舟賃拾ニ文荷造賃七文運送賃
 七文トス又木綿一箇ノ陸上費用ハ運賃ニ十文船舟賃三十文ナリ若シ朝鮮
 船運送ノ法ニ因ル片ハ明太一駄元山迄三百文乃至三百三十文ナリ
 向屋口錢ハ明太一駄ニ付六十五文木綿百疋ニ付一貫二百文大豆其價百文ニ付二文
 宛唐木一疋四十五文ナリ其他ハ大底之ニ準スヘシトス

毎年集散スル所ノ貨物總計及ヒ今年漢ヲ獲ノ明太等ハ其大概ヲ知悉スル
 モノアラサルヲ以テ茲ニ之ヲ記スルノ能ハス

唯現今明太ハ既ニ品切レトナリ新昌附近各村ニテ之ヲ買取セシテ難ク大豆亦此
 ノ如シ然レ共白米塩晋木金巾洋紗ノ類ハ其賣行尚ホ頗ル盛ニシテ南況
 甚ク佳ナルモノ、如シ寸燐項羅モ亦然リ其賣行悪レキモノハ石油紅金巾綾金
 巾紙類ニ止ル故ニ四方顧客今尚ホ輻湊シテ高率頗ル敏急忙ヲ荷駈踏
 上ニ絡譯タルヲ見ルナリ

大豆 一斗	五十文	亞木 百匹	七十六貫文
明太 一駄	八貫七百文	牛皮 百斤	九貫二百文
米 一斗	百五十文	塩 上俵	四百十文
日本木 百疋	六十二貫文	靈木 百匹	七十五貫文
金巾 一疋	二貫六百五十文	日本金巾 五	二貫六百文
洋紗 一疋	五百五十文	石油 一箇	一貫五百文
寸燐 一箇	二貫文	項羅 一疋	一貫七百文



紅金巾一疋	一貫六百文	後金巾一疋	二貫四百文
紙 一箇	三貫文	砂金十匁	二十貫三百文
紡績糸一箇	大一貫六百文 細一貫八百文	金三合糸一箇	一貫七百文
粟 一斗	百二十文		

附言 此地ニテハ其上陸時間ノ短ニ過キタル為メ枳量ヲ計ル能ハサレハ遺憾ナリ

尺 一尺ハ吾金尺一尺六寸九分ニ當ル

北青 新昌四里間ノ馬賃百二十文 人足賃四十文ヨリ六十文ニ至ル
農况 今ノ処大ニ宜シ

遮湖

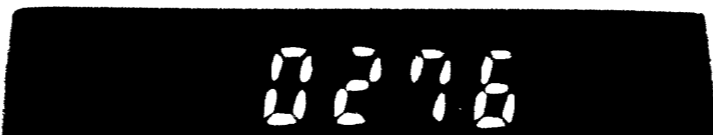
遮湖ハ南面シテ南ケタル小湾ニシテ入口僅カニ三里ヲ出テス湾ノ周囲亦漸ク一二マイル極メテ小形ナレ共極メテ安全ナル良港ニシテ五六百噸以上ノ濠艇ト畧民容易ニ山岸ニ泊ラテ泊スルヲ得ヘシ湾東ニ緑樹蒼蒼タル

在朝鮮國元山誌

日本領事館

沓取ノ二島アリ湾西ニハ黄丹山高ク聳ユ兩々相對シテ風浪ヲ拒止ス其風光モ亦羨ナリ市街ハ湾ノ尻頭ナル波考際ニ沿フテ建テ並ヒ左ナル鯨郷トシ右ナルラ高夫洋トシ中央ニ在ルモノ則チ遮湖ノ本洞ナリ戸數約六百新昌ニ五里北青ニ八里端川ニ十里本府利源ニ三里乎道坦々トシテ通スベシ此地一方ニ偏在シ其賤路亦極メテ狹隘ナル故ニ物貨ノ集散スルモノ年々甚ク少カラス賣買兩品共其價額後テ下直リ適切ニ言ハバ其産物ト稱スヘキモハ單ニ明太一種ニ止リ客主亦僅カニ此一種ノ賣買ニ因テ漸ク其生計ヲ立ルモノ似タリ去レハ其客主ト稱スルモノモ外觀富裕ナルモノサク全文若金五衛將ヲ除ケバ亦數フルニ是ルモノナキカ如シ

金卯商ニ從フモノ多數ナレ共相応ニ資産アリテ元山釜山ニ出高スルモノニ至リテハ二三十名ヲ超ヘズ市ハ利澤存内ニ一六ノ開市アレ共商人太夕振ハサルモノ如シ澳舟百舟アリ澳人亦數百名アリ而シテ一隻ノ商船ナレ商業竟ニ新昌比ミアラヌ



瀛船積之片解漸價ハ本綿一百疋ニ付三十文明太一駄ニ付三十文ナリ又荷作
 價ハ明太一駄ニ付緩代ヲ合セテ三十五文陸上價ハ本綿一箇ニ付十五文ナリ且ッ
 此地ヨリ元山ニ至ル明太一駄ノ朝鮮船運價ハ三百文同釜山ニ至ル運價ハ一貫
 六百文ナリトス
 向屋口錢ハ明太一駄ニ付五十文本綿百疋ニ付一貫文金巾一疋ニ付三十文其他
 ハ之ニ準ズ
 當時明太ノ現存スルモノ近村ヲ合シテ計二百駄ニ過キ大豆亦此地方ニ於テ殆
 ニト尺ニタリ牛皮モ品切トナレリ

市價

砂金十匁	十九貫文	大豆品切	
明太一駄	九貫八百文	塩一俵	三百五十文
米 ^{日本後}	二貫三百五十文	朝鮮鹽一俵	此 ^ハ 貫二百八十文 此地 ^ハ 廿二年
米	一斗 二百三十文	牛皮ナレ	
晋水 百疋	七十六七貫文	日本木百疋	五十二貫文ヨリ 六十貫文
ウソ ^ン 木百疋	六十三四貫文	金巾 ^上 義原	二貫六七十文 二貫三三百文
洋紗 十疋	五貫文内外	石油 一箇	一貫四百文
寸燐 一箇	一貫五百文	頂羅 一疋	二貫三百文
紙 一箇	三貫文	粟 一斗	百七十文
紡績糸一箇	二貫二百文	同細糸一箇	二貫二百文
同二合糸	二貫文		

沙羅津

右諸品中塩晋水日本金巾洋紗寸燐ノ類ハ賣行可ナリ景況
 ナリ本年ノ農事亦今ノ処ニテハ悪カラサル様ナリ
 柵 深金尺三寸九分 巾長共ハ八寸二分五厘
 尺 吾金尺一尺八寸二分 此地ハ十五斗ヲ以テ一俵トス
 西南海ヲ受ケ港形ヲナカス風浪ヲ避クルニ由ナレ戸敷僅々八十附近ニ絞糸

華市邑ナク唯邑内端川ニ至ル三里間ノ平道運送ニ便アルノミ

此地資産アル商人僅カニ十名ニ止リ之ヲ除ケハ元山釜山ニ出商スルモノ稀ナリ端川ニ市場アリ一六ノ間市ナレ共其商况亦太ク盛ナラズ漢人ハ三十名アリ商船ニ隻明太舟八隻アリ客主ノ名アルハ全先達ト本會知ナリ

向屋口錢ハ木綿百疋ニ付一貫文金巾一疋ニ付五十文明太一駄ニ付百文米一俵ニ付三十文塩一俵ニ付三十文他皆之ニ準セリ

此地ヨリ元山ニ至ル運賃朝鮮船ニテ明太一駄ニ付六七百文大豆一俵ニ付三百二十文ナリ

輸出品大豆明太ノ如キハ當時品少ナレ共輸入品米塩日本晋木金巾洋紗石油ニ至リテハ本港及ニ端川府共頗ル品高ニトナリテ勢ニ下落ノ傾アリ寸燐項羅ハ之ニ及シ稍ニ賣行好キ模様ナリ農作今ノ処是亦太ク佳ナリ

市價

在朝鮮國元山港

日本領事館

大豆 一斗 八十文 洋紗 十疋 五貫二百文

明太 一駄 八貫五百文 石油 一箇 一貫三百文

米 一斗 二百文 寸燐 一箇 一貫七百文

塩 一俵 四百四十文 頂羅 一疋 上一貫六百文ヨリ中一貫四百文下八百五十文

牛皮 百斤 八貫文 晋木 百疋 七十五貫文

紅金巾 一疋 一貫九百文 日本木 百疋 五十四貫文

綾金巾 一疋 二貫三百文 金巾 一疋 二貫四百文

紡績糸 一箇 一貫九百文 同合糸 一箇 一貫八百文

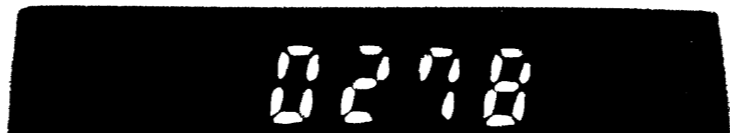
同細糸 一箇 一貫九百文

柵 巾長共我金尺八寸二分 深 四寸一分

尺 吾金尺 一尺九寸七分

城津

大湾ニ臨ミ東ニ向ヘリ風浪ニハ舟ヲ寄セ難シ戸數三百戸本ト會



使ノ治所ニシテ城趾今尚ホ巍然トシテ存セリ附近村邑吉州九里半
 沙羅古、三里臨場三里明川下培八里同渭水場十五里明川邑内
 一十七里鏡城府三十二里端川府九里半
 吉州ハ北関ノ富邑ナリ土産亦頗ル夥シ從テ其附近ニハ盛大ナル市場
 少ナカズ一六閑市ノ吉州府場ニ七閑市ノ臨場四九閑市ノ明川下培場
 等是ナリ是等ハ孰レモ北方屈指ノ市場ナリトス
 城津客主ノ内有名ナルハ金先達ト金五衛將ナリ而シテ其間屋口錢
 ハ木綿百疋ニ付六百文金巾一疋ニ付三十文大豆一俵ニ付三十文塩一俵ニ付三
 十文米一俵ニ付三十文他皆之ニ倣フ
 同所ニハ漁舟四隻舟人数十名アリ但シ高船ナシ又同所ヨリ元山ニ至
 ル朝鮮船大豆一俵ノ運賃大抵二百五十文内外ナリ
 城津吉州間及ニ城津臨場間ハ通路平坦車馬ヲ遣ルニ足レリ此地
 方ノ運搬業凡テ皆牛車ニ因リ其力一車ニシテ能ク馬二匹以上
 在朝鮮國元山港 日本領事館
 ノ運搬力ヲ有セリ而シテ之カ運賃吉州ニ至ル九里半ノ間八百文ナリ
 ト云フ又雇ヒ人夫ノ賃錢ハ一日七十文ヨリ百文ニ及一リ
 輸出品中大豆ハ城津附近諸邑間ニ於テ現ニ剩ス処尚ホ五六千石
 ノ額アルヘシト虽之ヲ買収セシメテヤ頗ル容易ノ業ニアラズト云ヘリ又
 白米晋水木綿ノ類ハ可ナリノ賣行アレ共食塩ハ其供給大ナリシ
 為ノ現時尚ホ盛大ナル需用アリ乍ラ少ク下落ノ氣味アラントス独リ牛
 皮一品ハ尚ホ隨テ買ヒ集ムルニ足ルベシトノリナリ

市價

大豆十五斗一俵	一貫百五十文	金巾 義信 一疋	二貫文
白米 一斗	百八十文	同順利洋行票 一疋	二貫文
塩 一俵	三百五十文ヨリ 四百文	洋紗 一疋	四百五十文 五百文
牛皮 一枚	六百文ヨリ 一貫文	石油 一箇	一貫四百文
日本 一疋	五百文ヨリ 六百五十文	寸燐 一箇	一貫八百文



晋水	一足	七八百文	綾金巾	一足	二貫三百文
金巾 <small>義源</small>	一足	二貫三百五十文	粟	一斗	百三十文
紡績絲	一箇	一貫五百文	同合絲	一箇	一貫二百文
同細絲	一箇	一貫七百文			

柵 長巾共、我金尺七寸六分 深 四寸五分五厘
尺 絹尺 我金尺一尺六寸八分五厘ニ当ル

木綿尺 我金尺一尺八寸五分ニ当ル
同地本年ノ農漁ハ共ニ可ナリト云フ

吉州及城津ハ共ニ十五斗一俵ナリ
洋化

港形東南ニ向ヒタル小湾ニテ元山ヲ去ル一里九十湊戸敷五十戸三面
山ヲ以テ圍ミ鏡城領内ニ寒村ニ過キ其距離鏡城十五里独賣味十五里
明川十五里ナリ

近州洋行 日六町事館

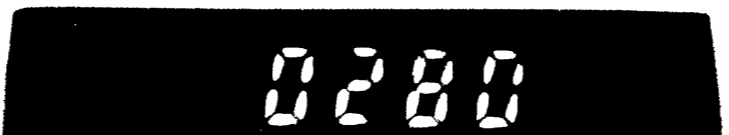
通路ハ明川鏡城西路共ニ頗ル峻悪ナレ共鏡城路ハ十五里中其十三里ハ牛車
ヲ通シ一車輻ノ賃金一貫五百文ナリ此地ニ大ナル客主ナク市商人ナク又資産
アル商人ノ方ニ出賣スルモノ概シテ高業ハ不振ノ方ナリト云フ

此地何屋台錢ハ金巾一足ニ付五十文其他ハ渾テ判然クラズ
茲去ル一四里ニシテ立石場ノ閑市アリ然レ共甚々盛大ナリトセズ港中ニ明太
舟四隻アリ土人ノ生計ハ概シテ塩漁農ヨリ成リ而シテ其製塩添ハ塩田ニ

依ラス唯海水ヲ汲ミ来リ之ヲ釜中ニ投シテ煮立ツルナリ釜數全村三
ヶ所アルニ過キス製塩額從ツテ大ナラズト云フ土産品中大豆牛皮ハ品切ナ
リ輸入品ニテ日本ノ紡績糸ハ未ダ此辺ニ行渡ラズ從ツテ其名ヲ知ルモノ稀
ナリ本年ノ農況麥作特ニ上出来ノ模様ナリト云フ

市價

大豆	一斗	七十文	米	一斗	百九十文
牛皮	ナレ		塩朝鮮	一俵	一貫四百五十文



北布一疋	六百五十文	晋木一疋	六百五十文
昆布一駄	十貫文	日本一疋	六百文
若芽一駄	<small>一貫八百文ヨリ 二貫文ニ至ル</small>	金中 <small>一疋</small>	<small>二貫文ヨリ 二貫五百文ニ至ル</small>
洋紗一疋	四百文	寸精一箇	一貫九百文
石油一箱	一貫文	項羅一疋	一貫二百文
綾金巾一疋	二貫文		

柵 巾長共、我金尺七寸八分 深 四寸三分
尺 一尺ハ 我金尺一尺七寸七分

此地積十五斗ヲ以テ一俵トス

地方民情

地方民情ハ孰レモ 静謐平穩ヲ極メ農高各其堵ニ安ニセサルナク行商ニ対スル危険等ハ最想像スベカラサルモノ、如シ然レ共今後若シ偶々往ヒテ再ヒ危険ニ遭ヒ遇セシモノアリトセン乎其危険ハ事変後継續セル

在朝鮮國元山港 日本領事館

危険ニアラスシテ朝鮮數百年來固有ニシテ不可除去危険ナルベ

シ斯カル危険ハ事変前ト呈シ往々其例アリレドナレバ軍ニシカ為メ

今日ノ平穩ヲ平穩ニアラズト曲辨セバ朝鮮ノ平穩ハ夫レ百年河清ヲ

待ツカケン

且ツ平穩ノ状ヲ寫スハ事変ヲ記スルヨリモ煩ル困難ノ業ナリ然ルニ各港

口ノ庶民ハ各々其職ヲ樂ミ絶ヘテ吾邦人ノ來商ヲ嫌フノ状ナキヲ見レバ

行商ハ固ヨリ其時ヲ得タルモノナラン乎

高ホ安全ナル行商ヲ營ミ朝鮮固有ノ危険ニ対シテ防衛スルアラント欲

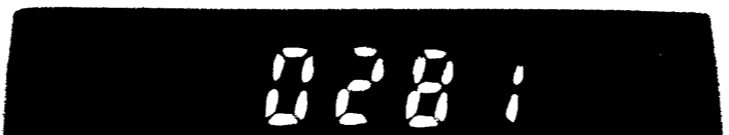
セバ隊商策ヲ実行スルニ若クハ勿ル可シ而シテ其商隊トモ種々ト稱ス

ルモ每一團十名内外ヲ以テ組織セバ足リナン商隊ニハ又種々ノ利益ノ

莫アルナリ

水税ノ事

咸興西湖ニ於テ塩木綿其他通過物品ニ徵稅スルハ魚テ聞ク所ノ如



レ然ルニ其税ナルモノハ同港問屋羅勘察崔五衛將張先達ノ三人
ニテ先其幾ノ利得ニ次テ残りノ幾ノ吏房又之ヲ横取レ其残額ノ
幾ノヲ觀察使ノ私スル所トナリ而シテ眞ニ税金ノ用ヲナスハ殆ンド幾
何モナカルベシト云ヘリ此契独リ西湖ノミナラス新浦新昌以北ノ各
港皆之ニ倣フテ通過税ヲ課ス舟人亦重テ事ノ面倒ナラシク恐レ多
ク之ヲ拒ムコトナレ然レ共其税ノ私人ヲ肥スニ止ルハ到处一般ナリ唯吉州ニ
ハ目今郡守到任セサル為ノ舟人敢テ課税者ノ言ニ従ハズト云フ税額ハ
凡テ之ヲ畧ス

右課税ハ條約ニ抵觸セサル攷頗ル研究ヲ要ス

明大及尺量

明太亦年ノ漢復総高ハ二万五千駄或ハ三万駄ト称スレ共固ヨリ精
確ナル計筭ニ出テクルニアラス然ルニ古今北関残存ノ明太額ニ就キテモ
或ハ三千駄ニ上ラスト云ヒ或ハ五千駄ヲ存スヘシト称レ甚タレキハ一
万駄ハ確カナリト唱フルモノアル方口區々未タ孰レカ信孰レカ偽ナ
ルヲ知ラス唯其残留額ノ存外ニ勘ナカルベキハ視察者ノ認ル所ナリ
北方ノ尺度ハ北布尺木綿尺絹尺ノ三種アリ又枰量ニ大豆枰
米枰ノ二種アリ

在朝鮮國元山港

日本領事館

大臣

次官

公第一〇三號

七九三九

陽徳高原地方不穩ノ件

平安道陽徳地方ニ近來賊徒群集シ本道高倉
 邊迄モ現ニ出沒スル由此程同地方ハ旅
 行セシ我商山田房吉ナルモノヨリ管館
 附警部迄申出タル趣ヲ以テ別紙ノ通り
 報告候ニ依リ右寫差進等向詳細申閱悉
 有之度候
 又韓人ノ偵察ニ據レハ陽徳ニ於テハ賊勢非
 常ニシテ在伊川外國宣教師ノ如キハ教徒
 シ集メ不慮ニ備ハ居ル趣ニ候
 左申致具

明治二十九年七月十五日

在朝鮮國元山港

日本領事館

左元山

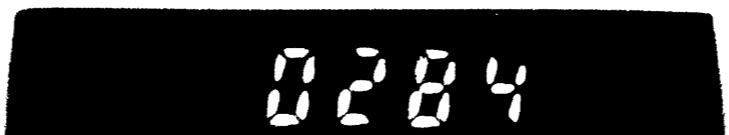
二等領事 二口美久



外務次官小村壽太郎殿

高原地方不穩報告

明治廿九年七月十日 港才四運十本番地北家山白彦等正者名
 亦正様ハセトシエロ文川多事、地境密濶引等、同所行
 不穩ノ風説有之、所等引引返、其、中、多、系、取、納、其、数
 始、同、一、所、元、山、生、其、翌、日、文、川、郡、流、岷、近、等、ル、ル、同、日
 口、所、等、多、成、事、同、日、行、キ、等、一、韓、人、生、合、レ、口、社、ハ、突
 此、三、近、来、同、日、三、又、多、折、髪、入、ハ、日、韓、一、差、別、ナ、ク、打、殺、ス、云、々、ノ
 噂、再、真、ト、シ、ル、故、此、際、口、本、一、根、引、者、此、位、ナ、リ、ト、注、意、ヲ、要、シ、ル、事、也、云、々、
 米、田、ハ、多、ク、采、金、行、ク、積、ミ、テ、口、方、自、ラ、威、威、ノ、巨、豪、ハ、尚、ホ、ナ、セ、里
 毛、有、之、誤、ナ、レ、ハ、差、一、ハ、ナ、キ、等、ニ、テ、第、一、灘、迄、等、リ、タル、再、ハ
 同、所、於、テ、元、山、ノ、ミ、テ、三、兼、テ、面、識、アル、モ、姓、名、不、知、韓、人、二、名、之、生、合、
 此、ノ、二、名、ノ、者、モ、口、方、原、三、ニ、リ、中、陽、徳、ヲ、教、百、名、ノ、賊、徒、龍、采、ノ
 報、アリ、故、ハ、目、下、人、心、恟、々、其、危、険、ヲ、フ、ベ、カ、ラ、サル、事、也、申、中、ソ、ケ、ル、ヨ、リ
 尚、村、民、ヲ、就、キ、採、金、ト、シ、ル、度、一、更、ニ、此、ノ、故、事、ヲ、モ、少、ク、シ、リ、ト、云、フ
 一、陽、徳、三、近、来、賊、徒、百、名、ヲ、群、集、シ、ル、ル、
 一、同、賊、徒、中、三、三、ノ、支、那、人、モ、混、入、シ、テ、不、口、山、路、ヲ、行、キ、当、地、方、ニ、群、
 采、ル、ル、
 一、口、方、原、徳、地、場、三、現、ニ、賊、徒、十、四、五、名、先、着、シ、ル、ル、
 一、近、来、平、安、道、三、於、テ、終、ラ、シ、金、鐘、人、夫、ヲ、解、散、シ、右、等、ノ、過、半、賊
 徒、三、組、シ、タル、故、今、收、賊、徒、ニ、其、勢、力、頗、ル、倡、振、ス、ル、



一同村に於て昨エリ午に三時交陽徳方角より砲聲頻々
聞へるハ或ハ日本兵ト賊徒ト戦争シタルニテハナキヤ不時ノ砲聲
ハ尋常ナラストテ人心恟々スルヲ

二且陽徳賊カ襲来シ咸真賊徒ト合戦シ日本兵ニ当ル中ハ
同村附近之カ戦地ニナリ今春新坪場戦争ノ當時ト同様一般
家産財産ハ皆無ニ帰スベシトテ憂苦シ甚ルヲ

一前記ノ悲境ニ陥ルニ其根源ハ日本ノ新髪ヲ勸誘シタル結果
ナリ云々トテ今般ノ噂ヲ既キテモ多少日本人ノ怨恨益々下
右等ノ事情アリ同ノ因所ヲ随行ノ韓人ノミラ差遣ハシテ
ノ授様一般ヲ探名セシメテ直ニ帰彼シタル事有之其系姓ハ

及報告也
明治廿九年七月三日
陸軍部梅谷辰太郎印

二等領事ニ口書久般

九月廿八日

通商

年

公事卷の四

第七九三〇號

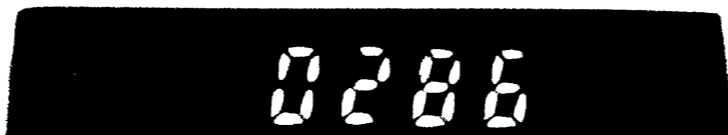
軍艦高雄北國航行再航の件

威鏡道北國各地商路如何ハ大ニ重要ナル事也
 要係ニ輕便ニ往ハカサル所也今更業ニ須ク
 此ノ北國各地情況ヲ悉ク察スルニ切ニ
 何モ今春北國各地物産不稔ノ高
 引揚價該般情況更ニ外ニ北國各地
 航路海ノ航路調査後ヲ藉リテ更ニ一
 全隊行キ視察スル事ヲ急セシムル事
 航路調査後九日ヲ信テ報告書ヲ呈ス
 此ノ北國各地情況ヲ悉ク察スルニ切ニ
 何モ今春北國各地物産不稔ノ高
 引揚價該般情況更ニ外ニ北國各地
 航路海ノ航路調査後ヲ藉リテ更ニ一
 全隊行キ視察スル事ヲ急セシムル事
 航路調査後九日ヲ信テ報告書ヲ呈ス
 此ノ北國各地情況ヲ悉ク察スルニ切ニ
 何モ今春北國各地物産不稔ノ高
 引揚價該般情況更ニ外ニ北國各地
 航路海ノ航路調査後ヲ藉リテ更ニ一
 全隊行キ視察スル事ヲ急セシムル事
 航路調査後九日ヲ信テ報告書ヲ呈ス

在朝鮮國元山港

日本領事館

船便ヲ務ルニカサレテ到底其目的ヲ達スルニ至ラズ
 此ノ北國各地情況ヲ悉ク察スルニ切ニ
 何モ今春北國各地物産不稔ノ高
 引揚價該般情況更ニ外ニ北國各地
 航路海ノ航路調査後ヲ藉リテ更ニ一
 全隊行キ視察スル事ヲ急セシムル事
 航路調査後九日ヲ信テ報告書ヲ呈ス
 此ノ北國各地情況ヲ悉ク察スルニ切ニ
 何モ今春北國各地物産不稔ノ高
 引揚價該般情況更ニ外ニ北國各地
 航路海ノ航路調査後ヲ藉リテ更ニ一
 全隊行キ視察スル事ヲ急セシムル事
 航路調査後九日ヲ信テ報告書ヲ呈ス



手紙具

明治廿九年七月十五日

玄元山

二等領事二口英久

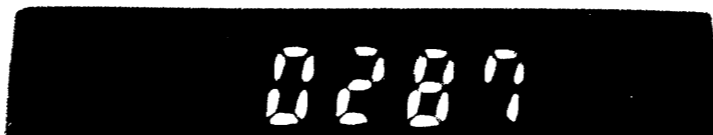


外務次官小村壽太郎殿

直不商業金海所視察員より差出の報告、次便より
可差送付此致し添付也

在朝鮮國元山港

日本領事館



雄基湾并、慶典視察復命書

明治二十九年七月五日軍艦高雄當威鏡道北隅
即チ露露港韓ノ國境豆満江ニ到リ、慶典陸路
貿易視察ノ為解僥ニ付便条同日午前九時接錨
午後七時北者管下ノ新浦ニ接錨同地以共沿岸ハ
未タ充分ナル測量ナク危險、慮アリシヲ以テ水先案内
者ヲ雇入ル、為ノ一泊翌六日接錨七時午後三時雄基
湾ニ着ハ口陸路慶典ニ到リ九時帰艦十時午前六時
出帆十時午前七時威典前洋ニ於テ大砲実弾射撃
施行アリテ午後二時帰元ス

雄基湾ハ露國ニテ「ガスキウイツチー」ト稱シ一時露領ト
為サレトシタリシ浦口ニシテ慶典湾ノ北西部ニ位シ一少湾
ヲ成セリ湾口南ニ向ヒ其位置北緯四十九度十九分東

在朝鮮國元山港

日本領事館

經凡百三十度二十五分湾底ハ土砂ニシテ暗礁ナク深サ七
ハ尋以上ニテ艦船ノ碇泊ニ便ナルモ東南風起ルハ浪
場新ナク良港ト云フヲ得ス然レモ豆満江ハ冬至キ
氷ニテ碇泊スルヲ得サレモ當湾ハ斯ル患ナキヲ以テ前者
ニ比スルハ稍優レリト云フベシ村落ハ北岸ニ雄基(戸數
三百餘)
アリ西南岸ニ龍水洞(戸數三)アリ一山ヲ隔テ江ノ西南端ニ
琵琶島(戸數五)アリ土民ハ重ニ漁業ト農業ニ従事
シ又食塩ヲ製取造スル者アルモ多額ノ産出ナク僅カニ
附近、供給ニ充ツルノミ

雄基湾ヨリ慶典府迄陸路七里雄基村ヨリ二里ニシ

テ諸述嶺(嶺ル高岸嶺也
二里餘ニ及ブ)ヲ越テ長陽(戸數五)ニ到リ同

地ヨリ一里ニシテ中津坪(戸數五)ニ達シ夫レヨリ一里半ニシテ

慶典府ニ達ス



慶興府

慶興ハ留寧ニ二十五里會寧ニ二十里西並東ノ三方ハ
豆満江ニ圍繞セシ恰モ半島形ヲ為シタル狹長ノ地
リ背面ニ岩石巍峩タル山嶺ヲ負ヒ前ニ江水ヲ控エ圍
ニ城壁ヲ以テス府ニ守備ナシテ屯在セル旧式ノ兵五十
名火繩銃ヲ携フ城門三個アリ東面ニ二門アリテ東門
中門ト云ヘ南ニアルヲ龍城ト云フ通常慶興街道ハ
南門ヨリ出入スルモ當日ハ兩乞ノ為習慣上南門ヲ閉塞
シアリシヲ以テ特ニ迂回シテ東門ヨリ入レリ

慶興管下ニ六社アリ即チ古邑社下新社上里社海津社
蘆里社西山社ト云全体ノ戸數二千余ニ達スト云然レ
庄府内ハ廣濶ナラス凡五六万坪位ニシテ戸數府内
外ヲ合シテ三百余戸ニ過キス土民ハ農業ヲ主トシ高

在朝鮮國元山誌

日本領事館

店ニ至テ稀レナリ實ニ寂寥タル一村落ニ過キス而シテ耕
作ノ種類ハ麥稗粟黍燕麥ノ類ニシテ土民ハ重ニ
粟飯ヲ常食トス米ハ府ヲ距ル四里、檉垣村附近ニ産
スルモ到底一服ノ供給ニ充ワルニ能ハス僅カニ上流社會ノ用ニ
供スルノミ

慶興府ニ千八百八十八年八月四日即チ我明治二十一年八
月二十日露國トテ條約ニ依リ開カレタル陸路貿易場タルモ
未ダ露國方面ノ設ケナリ亦露商ノ住居スルモノナリ只時ニ
浦塩場法附近ヨリ京博ニ向ル露國軍人ノ通過スルアル
ノミナリト云故ニ互市場ニ名アルノミニテ未ダ其実アルヲ認メ
ズ只僅ニ濟高五右右若林者ヨリ來リ金中燒耐其他ノ
雜貨ヲ販賣セルヲ見テ土民一般ニ順良平穩ナリ
慶興府ヨリ江岸ニ沿テ下ルル五里ニシテ靉山ト稱フル浦塩

斯德ノ渡場アリ夫レヨリ一里ニシテ龍峴(四谷花見ニ浦)ニ在リ同地ノ
 對岸ハ即チ露領ニシテ朝鮮人ハ地名ヲ臥峯ト呼フ
 同地ハ豆滿江ヲ以テ朝鮮ト境シ以南ハ總テ露領ニ屬
 シ以北ハ清國ト界ト境界ハ共ニ香岳ヲ置キ三國ノ境界
 地ヲ判然セレント云フ

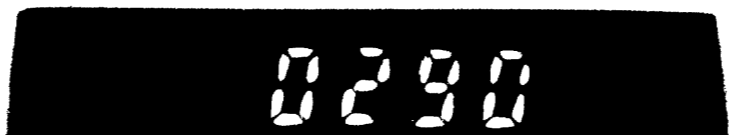
龍峴ハ浦塩斯德ノ本街道ニシテ渡場アリ慶興府ヨリ
 稅務所ヲ設置シテ之ヲ禁商ト稱シ同府ノ主事常
 ニ出張ニテ輸出入貨物ニ對シ稅金ヲ徵收ス且ツ關所ノ
 設ケアリテ土民ノ露清ニ渡ル者ヲ取調ヘ旅券ヲ交付スト
 云而シテ浦塩斯德ノ輸出品ハ生牛及ヒ軍馬ノ飼料タル
 燕麥ノ二種ヲ以テ重要品トナスト云フ若シ牛疫キキハ
 毎年一千頭以上及ヒ一頭ノ價平均三十圓内外ナリト云フ
 又燕麥ノ輸出高頗ル多キヲ以テ土民一般ニ其業ニ

在朝鮮國元山津

日本領事館

徑事	烟浦山野至ル計悉ク燕麥ヲ植付ケリ
浦塩斯德ヨリ輸入スルモノハ	金巾 倭金巾 石油 摺付本洋
蠟ノ類ニシテ又浦塩更紗ヲ着用シタル男世數名ヲ見及	
ケタリ土民ノ誤ニ據ル吉州以東ハ皆浦塩斯德ヨリ供給	
ヲ仰キ日本債地ノ輸入セラルモノ甚ク稀ナル由ニテ本綿	
類ノ如キハ未ダ見シモノナレト云ヘリ浦塩斯德ヨリ毎年陸	
路船ハスル金巾ハ凡ソ壹万及ニシテ相場亦此レ	
倭金巾 一反	貳貫三百文 四匁五六十錢
金巾 一反	貳貫四百文 四匁六九十錢
寒冷紗 一反	五百文 壹匁三三錢
石油 一盞	壹貫二百文 貳匁四五十錢
洋燭 一打 <small>小箱</small>	百八十文 三十五六錢

龍峴ノ對岸露領臥峯ニ露屯衛ノ設アリテ屯吏



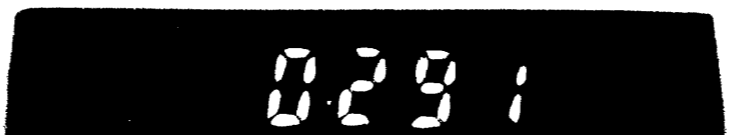
ヲ駐在セシメノ通行人并ニ輸入ノ生牛ヲ検査シ疫牛ノ輸入
ヲ禁セリ亦士官一名十二名ノ兵ヲ卒ニ常ニ整備シ在レ
リ在地ヨリ浦塩方面ニ進カテ六里ニ烟^{キクヤ}秋アリ兵營ヲ置ク
陸兵四千名比左ス尚前行一里ニシテ毛^{キクヤ}口^{キクヤ}歲ニ達ス兵二千
名ヲ駐ル同地ニ交界官ナルモノアリ亦學校ヲ設アリテ朝
解人ヲ教育シ頗ル盛ナル土地ナリト云フ

烟秋モ口歲ハ昔ニ露語ヲ解解者ニテ譯シタルモノナリ此
或法人ノ唱フル石所ナリ此ヲ何レヤ判然セズ

江岸臥峯江北清國ニ屬ス法人ノ家屋ナク慶興府
ノ對岸ハ茫漠タル廣野ナリ郊野田圃ノ向ヲ進ミ行ク
十里余ニシテ屹立セル大山アリ上角山ト云フ其山林麓ヲ里頃
子ト云フ兵營アリ二營ニ分レ東營西營ト云フ而シテ一營
各五百名合計一千名ニシテ夫レヨリ八里ニシテ釋^{キクヤ}峯ニ
在朝鮮國元山港 日本領事館

豆満江

豆満江ハ雄基灣ヨリ北ニ距ルテ水路五里實ニ露清韓
三國ノ境界ナリ而シテ合江ハ京畿道ノ漢江平出道ノ大
同江ニ比シ寧^{キクヤ}口廣大ナルモ狭クテハ思ヒシニ實ニ豫
想外ナル也河ナリキ土民ノ言ニ依レハ江口ハ頗ル廣大ニシテ
幅員里余ニ及フモ遼^{キクヤ}ルニ遠ク居曲スルテ甚シク河幅
愈狭トナリ慶興附近ニ至リテハ僅カニ十間乃至三十間
餘ノ幅員ヲ有スルノミニテ對岸ノ法人ト向テ居ルヲ得
ベシ江岸ニ瀕スル地ハ高サ一尺乃至十五尺ニ及ビ堤防
形ヲ爲シテ内部卑濕、砂地ヲ包ミテ或ハ涸クシテ水
橋スル筈ナリモアリ梅雨ノ季至ニ至テ水量ヲ増



漲溢フルアルモ春秋其水量ヲ減ス江中砂洲ヲク
レテ水底淺ク端船ヲモ入ルヲ能ハス今ツ古ルニ昔年露
艦ハ露艦船ヲ卸レ水陸慶島ニ到ラントレ途中砂上ニ
奈揚ケ露艦セトニクルアリト云フ故ニ龍峴ヨリ臥室
慶島ヨリ清領ニ渡ルヘキ船船ハ何レモ船底淺ク一隻
漸ク十人許ヲ載スルニ足ルニ春秋兩方ナキハ岩家ヲ穿テ
ケテ渡ルヲ得ヘシ故ニ露清ニ渡ル土民多ク開港ヲ通
過スルノ年數ヲ通ケ自由ニ往涉シ去ルヲ以テ開新ヲ
設置ニタルノ切ナク年々成汗ノ往復アルヤ又如何ナル物不
ノ輸出入アリヤ且其信頼如何ヲ確知スルヲ爲レ容易
ノ業ニ非スト云フ

鹿島

鹿島ハ普通ノ地圖ニ島嶼ノ如ク記載シアルモ島ニアラズ岡

在朝鮮國元山港

日本領事館

地ハ元來朝鮮ニ屬スル收揚タリシモ今ハ露領トナレ
リ鹿島ハ砂沙沼澤ノ地相連リテ露領「ホセツ」上流ニ
通レ島形ヲ為サスト云フ然レモ往昔豆滿江ノ水勢激
烈ニシテ砂ホヲ流去レ江口ニ堆積シテ一島ヲナレ後又埋
没シテ終ニ現存ノ如ク陸地ト接續シタルモノナラン日地
ニモ兵營アリ又朝鮮人ノ移住スルモノ數カラフト云フ而シ
テ此号ハ甘シテ露國ノ法律ニ從ヒ殆ント降北シタル者
ノ如シト云ヘリ

慶島有知事ハ金尚振ト云ヒ元來日地少身ニシテ人成
温厚篤實頗ル瀟灑ニシテ交際ニ長シ露語及ヒ清語ニ通
シ能ハス露清人ト交際ヲ務メト云フ露島ニ主事ニ各ア
リ等レク皆兩國ノ言語ヲ解ス偶會寧郡守ニ面會シ
タルニ是亦露清兩語ヲ諳ル者當時浦塔期使臣ヲ



往復スト云々郡守ノ説ニ由テ浦塩斯法ヨリ陸路京
城ニ架設スル電線ハ己ニ計畫中ナルモ未タ架設ノ
準備成リ立タズ技師白詰鑄帰京ノ上費用ヲ確定
シ露國ニ借款スル若ナリト云ヘリ
同府官衙ハ國有ノ朝鮮風ノ構造ナルモ室内ハ総而
西洋造ニシテ椅子テーブルストーファンア食器等ヲ備ヘ
リ此等及其他ノ裝飾品ハ皆浦塩斯法ヨリ輸入
スト云フ此等ノ点ヨリ見ルモ浦塩トノ關係頗ル密ナルヲ
察スルニ足ルヘシ

我等一行ノ慶貞府ニ來着セシテ黒頭子ノ清管ニ
於テ親知シ夜台或ハ來館者セシモ程身トテ知事ハ愛
慮ノ餘時兵丁五名ヲシテ護衛セシメタリ士民ハ
今尚ホ改政ノ年ヲ用ヒスシテ皆光緒ヲ用ヒ露
語清語ニ通スルモノ多シ其地附近ノ居民ハ法國人
爲シテハ表西ニ敬意ヲ表スルモ東西ヨリハ我ト唱ヘ或ハ
粗暴人ト云ルモノアレハ露國人ニ對シテハ罵詈雑言
ナキノミナラス却テ浦塩斯法ヲ知ラサルモノハ度お視セラ
ルノ様様ナリ云々露國ニ比シタルモノ、此レ
右見聞ノ後及漢年ヲ多量

在朝鮮國元山港

日本領事館

明治十九年七月十三日 書記生 吉雄 謹言

二等領事 吉美久 敬

外務省 通商局 事務局

公第一三三號

第10018

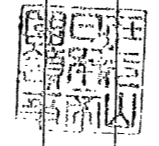
賊魁岡龍鎬二群捕獲件

日暮江原道江陰庄在出日暮つてし岡
 龍鎬一二百名其後乃其
 討捕せし者陽法道在、或布月九日
 有る、其、水、向、此、後
 有る、所、ア、サ、リ、テ、其、別、に、候、様
 ナカリし由、彼、も、其、目的、を、成、ル、モ、江、界、に、到
 リ、清、人、の、候、所、ア、ラ、レ、ト、計、畫、ナ、リ、ト、云、フ、其、後
 遂、に、拉、甘、某、國、界、を、海、邊、に、至、ル、其、後、一、群
 一、百、名、に、我、行、商、賣、甘、水、を、於、て、發、見、し、
 然、後、其、を、官、商、に、賣、り、之、を、運、出、す、其、具
 在朝鮮國元山港 日本領事館

明治廿九年九月十日

左之山

二〇〇〇年二月廿六日



外務省 小村 農務 大 郎 殿

不ラ見上ニ或ハ河カ計畫元所アラセ放ト様公カ
 為シ元山星ニ故内シテ務開ニ多量日本駐留地
 後面中々遠深洲迄又ハ海路ヲ在留地ヲ設
 將ニ様ノ事アリハ一大事ニ存今夜ニモ元山里
 一ツ海島ニ三千名ヲ派遣シ彼等ノ手勢ニ臨ムサル
 様様ニ考戒ヲ加ヘラレタレ尚ニ粒粒各其地探
 偵者ヲ派遣シテ其事度ノ起リテ後ハ其證ナキヲ
 以テ務メ根柢ノ為メ罷出スルノコトニ有之ル依テ却
 友ハ身ニテテ願フ義ヲ在留地ハ中備隊長トモ據我
 ノ之者者考戒ヲ加ヘ可申ク在留地ハ在留地ノ状
 況偵察スルカ分ヲ報リセラレタレト申被ニ在留地
 有放及申報スル具

明治二十九年九月十七日午後七時

在朝鮮國元山港

日本領事館

元山

二等領事 二百八



外務省通事小村壽吉印

廿九年十月七日付受 書通高野

公第一四三號

暴徒状況偵察ノ件

第一四五〇

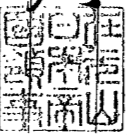
暴徒肉龍錫一隊陽徳より北進竟威
 興ニ據リ當元山ニ來籠カストノ件ニ關シ前便具
 報後者迄監理ニ頻リト我ニ非常ノ警戒ヲ
 促カシ恐惶不一方々去ル程ニ況今純信
 陽路ニ難キハ勿論ノ我ニ在リ者國内地ニ於ケル
 現狀ハ地方及ラ各トシ暴徒ノ氣勢如何ニ向テ
 常ナキ故未ナリ依テ我ニ在リ者ニ目下該方面
 ニ我行高者モ有之ヲ以テ保衛ニ重ク注意シ
 状況偵察ノ為ニ去ル十日者館山也香境益々於
 分ニ名ヲ示シ敵軍原形ニ迫進ト望ミ十九日歸館
 山也香境復命ヲ行テ據ル者元山ヨリ宮原

在朝鮮國元山港

日本領事

ニ至ル迄各都府ハ多ク警備者之有原ニ於テ同
 番守者此等一行ニ急目下威兵ニ我軍出在セルヲ以
 テ此地ニ迫進スルハ危險ナリト頻リニ歸元ヲ促シタル由
 一在回地及官ニ於テハ我軍ニ急テ所派兵ニシテ不
 慌ノ状ニ世々之要スルハ一般者下セサルモ以テ恐
 人々ニリ建人ヲ疑フモノ風見ハ凡趣ニ有之ニ在日
 地以世威兵ノ状況ニ各地警備圖ヲ偵察人
 ヲ派遣者之有官由元ヲ候テ至テ報告可致ル以
 此具ニ報テ致具

明治廿九年九月五日 二等領事 二宮 久



外務次官小村嘉大郎殿

次官

廿九年十月十日受

警通商局

警通商局

公第一五二號

NOV 11 1900

賊魁岡龍錫一行出進レタル義ノ冥シテハ己ニ公
 才一三七號並一三八號ヲ以テ及報告書出ル處
 月二十九日付以テ威興親密係下ヨリ出タル信
 書昨夕多港監理署ニ到達シタル模様ニ據テ匪
 徒夜申武涉以下二十余名ヲ捕ハ(何日ニ龍錫等ニ
テモ)砲撃セシヲ以テ一行散乱シテ北走ニ向ヒタリシニ
 亦同府兵ニ勅令セシ遂ニ去外管中ノ博津ニ
 到リ目下同府ニ屯集シタル兵使守備ナルノ是
 ヲ勅減スル能ハストノ事ニ指スル及報告書
 了ル旨

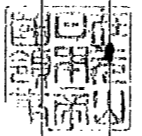
明治二十九年十月二日

在朝鮮國元山港

日本領事館

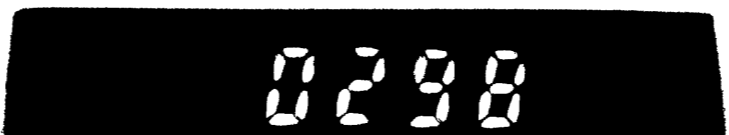
玄元山

二等領事二口義久



外務次官小村壽太郎殿

5-1 3 1 0

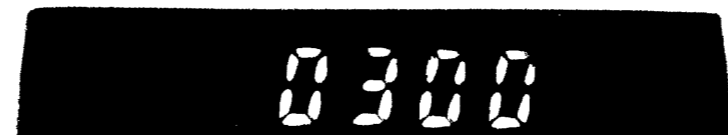


暴徒ハ江空道ヲ黃海道及平安道ノ山路ノミヲ徑過シ九月ノ月次
 陽徳ヨリ高宗ニ入ル其數百ヤ九名義兵ト稱シ郡守ニ面會セシ
 郡守固ク永濟最モ鄭重ニ拒拒シカバ濫殺セシヤ一ツノ強徒暴徒
 ニ至ラス其ヨリ高宗ヲ距北方四里ニ永島ニ行ケリ郡守全威
 變ハ其志ヲ瓦國ニ在リ其舉動怪シナド及有迫シテ遂ニ暴徒及バ
 ニセカ屬條中夫人アリ其先ヲ示シ証明シ付裁セヨリ幸ニ
 毒手ヲ免レテ郡守ハ其國ヲ匿シ只管甘心ヲ買フニ如カスト
 思ハ牛一頭ヲ屠リテ馳走セシ暴徒愈増長シ兵士ノ必要ニ依
 リ義兵五百名ヲ募集セト迫リ已ムナリ議議セシ咸與ニ向
 ケ島島集義兵ヲ進軍セシメトノ命左ラ遺ヨシ五里ヲ距レル
 初元ト云々地一泊シ翌日空平存着シ亦郡守ニ迫リ義兵及軍
 用金ヲ得トシ錢五十貫文ヲ強談シ十名名ノ日暴徒ハ之ヲ長クシ

在朝鮮國元山港

日本領事館

一人トテ遺シ約條ノ金錢及募集義兵ヲ幸ニテ咸與ニ會セト命シ
 隊俸ヲ同進ニ進ナカリト
 是ヲ先彼暴徒咸與ニ亂入スノ噂ヲ聞ケヤ咸與判官ハ多ク命
 フ下シ人民ヲ徵集シ武器ヲ檢テ防禦策ヲ構シ城外大橋ヲ掘リ流
 上臨テ待ツニ違ハ暴徒隊ヲ為シテ乘リ郡守抑リ馬ノ上ニ在テ發砲ノ聲
 令ラ下スモ更ニ人民之ニ應ズ發砲スノ色ニ暴徒益迫ル郡守早ク令切
 リ勉ム人區ハ彼輩盜賊ニ非ズ義兵ヲ以テ自稱ス所ノ彼等モ亦ソ
 朝鮮人ナリ如何ヤ情ヲ察シ砲發ホツ傷ムル恐ヒヤトモ遲疑寸近漸
 以散亂スモ更ニ郡守已レテ馬ヲ回シテ其勇ニ志レリ
 暴徒何モ障モナリ得テ城外侵入シ人民ヲ集メ義兵及軍用金ヲ強談シ
 及ツ人民ハ觀望候ハスルニ行キ郡守ハ其勇ニ志レリ我々トモ如何トモ在
 難シト云々ヤリシ火藥及武器倉庫ヲ閉カシトス又人民等郡守不在ノ
 首ヲ以テ捉レテ聞カシメス姓ラハ郡守捕ハ来レトニ名ヲ將三十名名暴



徒ヲ隨エ吐青ニ向ケ出共夜ヤ

咸興ノ人民ハ暴徒ノ入江シヨリ近郷ノ人民恐レテ米ヲス市ニ立カ此徒久
シク滯留カニカ此地ノ迷惑堪ハ難ト種々抗議ノ未達之ニ有相提携
シテ其隊長ヲ訪問シ滯留ノ原因ヲ多ク軍用金ノ調達セシト申出シ
郡守ヲ押エ米ル途ハ滯在セシト訂カカリシ

九月ノ夜暴徒ハ印ヲ大茶及武吾ノ倉庫ヲカトセシテ番人警メ倉庫
ニ盜賊入レリト大声辨叫セシニ人民四方ヨリ群集シ四面ハ方ヨリ攻勢
乱打セシニ暴徒ハ不意ノ襲撃ニ狼狽シ石位在徒ト散乱退走シ其ハ
十名ハ捕傳セラレタリ

是ニ郡守捕獲ノカノ吐青ニ向ケ出役セシ一隊咸興ヲ距ル七里ハジ
カリヤントラウ処ニ於テ吐青ヨリ兵士五十名ヲ借り咸興ニ向ツテ進軍シ金
中ニ咸興郡守ニ出會掩撃ヲ受ケテ一敗ヤ郡守ハ進ンテ咸興ニ米
リシニ暴徒ハ既ニ存民ノ追ヒムル跡ヲリキ直ニ其首ヲ定平永興

在朝鮮國元山港

日本領事館

通達シ連平ニ米滯留ナル暴徒ハ捕獲ニ役事ニ四名ヲ捕士金ハ必散
シ永興ニ逃去者一名ヲ捕エタリト

寺ニテ暴徒ハ到ルハ人民ニ暴徒ヲ加エス唯郡守ニ義兵ニ募集金銭
ノ強談ニ及ボシノミナリ故通達ニ前向一時人民ノ恐怖ヲ去セシ
商業上ニ差シ先影響ヲ受ケハカリシハ不幸中ノ幸ナリヤ

人氣ニ咸興ニテ暴徒散乱后ハ鎮靜更々ニ平日ニ異ナカ

農作物ハ文川高原ノ南區散降霰ノカヲ稍ニ害ヲ加エント謂
一其被害九牛ノ一毛ニ之區ニ咸興附近ハ大豆積鼠モ害ヲ到ルハ
翌年秋腹ヲ唱エ居レリ

在外公館暴徒状況報告件

外務省

5-1310

0302



中田電送第 西 三 九 號 57w

Kishi (8)

Hayashi (8)

十二月三十日

Royal decree was issued in Korea recommending 斷髮. Korean people mistaking it for compulsory order petty uprisings are taking place in several provinces in some cases capturing local offices and driving away officers. Korean Government are sending officials to quiet them down by moral persuasion and also troops by way of demonstration. It is believed that disturbances will end before long without assuming serious magnitude.

Kishi } Transmit to 在英、法、佛、美 公使

Saionji

Sent Jan. 24. 1896.

5-1310



明治二十九年二月廿七日

記録課長

明治二十九年二月廿七日發遣

主任

英佛獨澳露伊果

在

英、佛、獨、澳、露、伊、果

領事各地、暴徒蜂起、件

本日午後、領事起、先子、露、上、の、軒、

明治二十九年二月廿八日記

外務省

極密付、以、シ、テ、直、に、之、の、方、を、露、ノ、方、に、送、リ、

呈、在、地、の、蜂、起、シ、ル、暴、徒、ノ、概、況、左、ノ、如、シ、

本年一月中には露及露の地方に於て暴徒蜂起

断絶、之、を、抗、ス、ト、獨、ニ、九、郡、邑、ヲ、露、に、送、リ、

之、を、露、に、送、リ、之、の、部、街、ヲ、露、に、送、リ、先、降、談、暴、徒、

一、群、ハ、本、邦、人、ト、シ、テ、之、の、部、街、ヲ、露、に、送、リ、

及、テ、露、上、に、傳、ケ、上、に、傳、シ、露、上、に、傳、シ、



54

5-1310

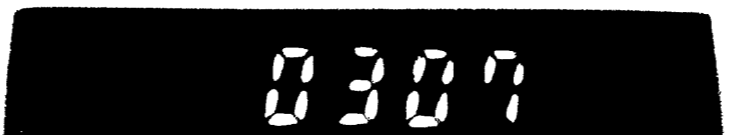
0304

曹長^ノ兵士^ヲ増^シ兵^ヲ領^シ南^ノ界
 徒^ノ智^ヲ經^テ嶺^ヲナリト^ノ報^ヲ持^テ之^レ以^テ示^シル^ヲ本^ノ月^ニ七^日
 又^ハ兵^士五^十餘^人ヲ^シ率^テ以^テ領^シ
 嶺^ノ方^ニ而^テ前^ニ進^セシ^タル^ヲ
 又^ハ昨夜^ニ羊^山良^ノ前^ニ進^セシ^テ曹^長ヲ^シ飛^報シ^テ依^テ海^陽
 月^ノ南^ノ方^ニ昌^道驛^ノ附近^ニに^テ於^テ一^如ク^テ兵^士五^十餘^人ヲ^シ率^テ以^テ領^シ南^ノ界
 予^ノ按^テ嶺^ノ中^ニに^テ包^ムル^ヲ戰^フヲ^シ報^ヲ持^テ示^シル^ヲ地形^ノ我
 取^テ不^レ利^ナリ^シハ^テ唯^ニ陽^ノ川^ノ場^ニテ^ハ人^ノ家^ノ人^ノ多^ク糧^ノ衣
 外^ノ務^ノ省^ニ
 又^ハ是^レ亦^ハ止^ム高山^ノ近^ク引^テ揚^テ見^ルハ^テ以^テ昨^ノ夕^ニ信^ヲ騎^ヲ報
 先^ノ報^ヲ又^ハ亦^ハ報^ヲセ^シメ^タル^ヲ日^ノ下^ニ形^ノ勢^ノ之^レ異^ニ統^ノ兵^士五^十餘^人
 産^シ南山^ノ (^之山^ノ傳^ヲマ^ルカ^キ也^ト云^フ)以南^ノ人^ノ民^ヲ率^テ以^テ領^シ南^ノ界^ノ
 又^ハ又^ハ白^甲之^ノ更^ニナ^リ夜^ノ中^ニ大^ニ肥^テ揚^テ降^テ南^ノ下^ス物^ヲ多^ク
 此^ノ書^ノ異^ニ統^ノ騎^ヲ引^テ南^ノ界^ノ今^ノ報^ヲ斷^テ整^テ令^ヲ發^ス布^ス統^ノ
 果^シ之^レ書^ノ川^ノ南^ノ山^ノ北^ノ位^ニ儒^者本^ノ所^ニ應^{ナル}モ^トノ^巨魁^トリ
 ト^モフ
 口^ノ十^日加^上驛^ノ領^ヲ守^ル故^ク也^ト本^ノ月^ニ七^日至^リ昌^道驛^ノ也^ト



於テ同日、陸シ暴民數百名、捕獲シ、口地厚ニ攻進
 二在リシ我電線監視所ニ及リ、剛号手アリ、他ノ日
 亦、ヲ捕獲シ、之ヲ殺傷シ、又、我電線ヲ切断シ、陝、口地以
 南、於テ電柱ノ倒マテ、六十本、ノ倒シ、北、ニ、正リテ、キリ
 狀ヲ、評ニ、モ、ト、モ、更ニ、之ヲ、甚クシテ、模模ナリ、而シテ、口地、功
 也、駐屯セル我守備兵、ハ、傳テ、不隊、ノ、兵、負、心、ノ、
 ニシテ、口地、以後、數、次、在、テ、而、モ、カ、數、ノ、兵、ヲ、出、シ、暴、民、ト
 戦ヒ、シ、モ、毎、日、夜、間、亦、敵、モ、我、兵、燬、ル、固、執、ノ、極、ム、固、ク、
 外務省
 台封大印、向、ノ、守、備、兵、一、中、隊、ヲ、遣、次、可、興、ノ、仙、臺、ニ、赴、
 ナ、リ、ヲ、期、シ、一、年、ヲ、驪、別、ノ、暴、民、獲、取、ス、ル、ト、決、シ、テ、行、進、
 中、ナル、所、ナリ、
 口、ナ、モ、所、以、口、地、ヲ、攻、テ、北、シ、ハ、暴、徒、ノ、勢、益、々、振、撫、ニ、シ、テ、口、地
 附近、駐、在、シ、我、守、備、兵、三、中、隊、ノ、一、中、隊、ヲ、留、置、シ、他、二、中、隊、ヲ、
 駐、在、シ、守、備、兵、三、個、中、隊、ノ、一、中、隊、ヲ、留、置、シ、他、二、中、隊、ヲ、
 可、興、附近、~~ノ~~ 駐、在、シ、~~シ~~ 口、地、ヲ、攻、テ、北、シ、ハ、暴、徒、ノ、勢、益、々、振、撫、ニ、シ、テ、口、地
 口、地、ノ、偵、察、ノ、功、驪、別、ノ、暴、徒、ノ、勢、益、々、振、撫、ニ、シ、テ、口、地、
 口、地、ノ、偵、察、ノ、功、驪、別、ノ、暴、徒、ノ、勢、益、々、振、撫、ニ、シ、テ、口、地、

4



行内分る多分景徒ノ投電云所トナリシトナリ
又度高及安東府ニ起ル景徒ノ親衛隊ノ勢破る
トナリ巨魁ノ禮^母走リタルリテ親衛隊ニ追撃す
策す

本日ナリ在仁川存留時ニ代理ノ電給^ルルニ日暮ニ開城地
亦不穩ノ極極^ルルニ在留兵及^ル然^ル仁川ノ引揚
久^クト^クナ^リ在仁川^ニ在^リ一日^ノ暮^ニ至^リ仁^川ノ^引揚^不
穩^ノ報^ハ確^クス^ル果^シテ^ハ日^下派^兵ノ^引揚^不
外務省

陸軍ノ拘多ス急^ニ保護^スル^ニ及^スル^ニ策^スル^ニ又
昨日^ニ午^ノ時^ニハ^ハ在^仁川^ノ在^留兵^ノ電^報云^ク仁^川ノ^引揚^不
ル^ニ及^スル^ニ在^仁川^ノ在^留兵^ノ電^報云^ク仁^川ノ^引揚^不
ニ^及ス^ル在^仁川^ノ在^留兵^ノ電^報云^ク仁^川ノ^引揚^不
招^撫ス^ルト^ノ報^{アリ}ト

口^ノ下^ニ在^留兵^ノ電^報云^ク仁^川ノ^引揚^不
親^衛隊^ノ勢^破ル^ニ及^スル^ニ在^仁川^ノ在^留兵^ノ電^報云^ク仁^川ノ^引揚^不
考^スル^ニ在^仁川^ノ在^留兵^ノ電^報云^ク仁^川ノ^引揚^不



寛政九年二月廿七日

送第	送第	送第	送第	送第	送第	送第	送第	送第	送第	送第	送第
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號	號

下
天
日

5-1 3 1 0

03 10

次官



廿九年三月十四日通函

記録課長



工

明治廿九年三月十一日起算
同年八月十四日發達

主任

機入
北条



左

英、佛、獨、奧、露、伊、米、葡、意

各公使宛 外務大臣臨時代理

於歸多地暴徒蜂起ニ

於歸多地暴徒蜂起ニ件ニ付本年二月九日
廿九年三月十六日記録課接受

外務省

ソ及ハ國會議、高平後ノ状況左ニ
及ハ内閣

二月七、在京城内用頭ニ被テ 京畿道驛前ニ於テ

本邦人七名暴徒ノ多殺害セヨトノ報ニ接シ先ヨリ

右等被害者ノ屍体、搜索及被害ノ状況調査ノ為

中西警察部、巡查五名ヲ附シ出張セヨ先ニ暴徒ノ智

甚ク猖獗ニテ蜂起、地ヲ三十里ニ亘リ電信線、切

斷セヨ先ニ十五里ニ及ニ 該地附近ニ於テ我兵站

部自ノ力ヲ以テ容易ニ抑テ退シ組ヲ該警察部ニ為セ

其目的ノ達ス能ハシテ退却セシ^但該暴民ノ本邦
人ノ殺害セシ者九名四七名ハ陸軍省府吏及人吏
ニシテ他ノ二名ハ商人及醫師ナリ又兵站部下士兵
卒人史書セテ賊ト交戦シテ死傷シタルモノ約五十
一名及ハリト云フ

口日ナク在金山ノ野類ヲ殺シ 咸鏡道鏡城

赴任シテ終解警務吏花田重政等ハ着目スヤ

ナク暴民ノ殺害シ警務吏只一人 幸フニテは結ハ逃シ
外務省

除ク来リ名トモハ重政ハ一司暴徒ノ少捕コシキ

江原道通川以南ハ各郡共ニ暴民蜂起シ江陵ニ在

警務吏花田重政等ハ斬殺セシ郡守ハ制ス能ハ

スニテ逃亡セリ 暴徒ハ尚江陵ニ屯集シ概ソ四方ニ傳ハ

智城ニナリ 秋田昔昔者山ノ民本原源流ナリモノ村

城ハ西道中暴徒ノ手ニ捕ラレ江陵ニ送ラレトノ風説

アルノミナリ 四ノミヤ官各々何ナリ

黃海道各郡暴徒蜂起シ現ハ海州ニ屯集シ兵士ヲ觀



先んぞ知へハカラスト

一月十九日在仁川英領事館より代理報告

仁川府觀察使衙門より急報あり曰く昨午安山(仁川より

距十二里)果川(全七里)水原(全於里)地方に暴徒蜂起

シ其数合計凡四千余名を衙官定り毀壞シ出物燬シ

燬ナリ依テ至現視察ノ為メ巡檢官名ヲ派遣シ先んて

内訌者ハ暴民ノ為メ負傷シた由り一時起テ奉還ハ断致

令屬行ハ在仁川ノ如シ

外務省

一月十九日在京城内閣より報告 二月十日京城北留居年

書田川佐予ハ若生牛買メノ為メ其雇人三名ヲ送_送郡

道其_陽頃郡若陵場ニ遣_送シ先ニ口地ニ於テ暴民ノ為メ一政

打セシ故ニ名ノ内二名ニ重傷ヲ負_負シ隨_隨シ向_向トシテ名_名ニ中_中行_行動_動不

動_動ハ_ハ此_此ニ_ニ或_或ハ_ハ殺_殺害_害セ_セシク_クヤ_ヤハ_ハ計_計シ_シズ_ズト_トス_スナ_ナリ_リテ_テ西_西伯_伯の_の巡_巡査_査

ニ名ノ口地_{口地}ハ_ハ仙_仙老_老ノ_ノ高_高ニ_ニ當_當國_國ニ_ニ當_當照_照子_子ニ_ニテ_テ警_警務_務廳_廳ヨ_ヨリ

檢_檢査_査名_名ヲ_ヲ仙_仙老_老ニ_ニテ_テモ_モナ_ナリ

一月二十三日加_在藤_藤領_領子_子報告 可_可與_與ニ_ニ於_於仁_仁川_川中_中大_大尉



三宅大尉が当地に達し先最近ノ電報に於て驩州附近
暑徒ノ激ハ可興ヲ懸ハントシ同地ノ近傍牧場ニ來り久ク以テ
可興駐在ノ我々備兵ハ二十日未明牧場ノ暑徒ヲ逐殺シ
久ク暑徒ノ大部ハ忠州ノ方向ニ往ル他埤川地方ニ潰走シ暑
徒ノ死者四名ニシテ牧場ノ民家ニ送羊兵營ニ罹リたり而シテ
忠州ニ多數ノ暑徒依然集ルニ先ク以テ我々備兵ハ之ヲ
攻撃セシムル為メ先ニ二十名偵察兵ヲ安堡ノ方面ニ出シ忠
州附近ノ敵情ヲ探察セシムル事ト

外務省

八月二十日在任駐京領事及代理電報 安山地方暑徒ノ
情況偵察ノ為メ先ニ七月二十日偵察二名ヲ派シテ安堡附近
スル所ニ依リ同地ノ暑徒ノ官衙官舎ノ破壊シ狼藉ヲ極メ先上
本月二十日仁川府觀察使ニ何事ヲカ請願スルノ議ヲ決シ一先
ヲ退散シ先申シテ目下異状ナシト又本月十九日高陽郡署傍場ニ
於テ本邦人ニ及テ電報ノ趣ニ由テ領事ヨリ電報アリ先ハ同地方ノ
情況偵察ノ為メ先ニ十九日偵察者探察ノ為メ即ち暑徒ノ
経路巡檢ニ及リ同日及シ埤川附近ニ向テ出張スルメ先カ七月



帰籠區有_レ申ハ九治道外地方トモ月下松別異状ナリ
 不日暴風増起ス_レトノ取付テ_レト又仁川附近及_レ安山
 附近ノ人民中斷警令_ニ服セ_レリ者且_レ夕_ニ期シ仁川附近ノ
 地_ニ大集會_ヲ爲シ大國_ノ議_ニ仁川府親善使_ト視_テ類ス
 ル企_{アリ}ト又京仁同卸便_ヲ復_シ傳_ス言_ハ依_レハ九岷山附
 近_ニテ夜間時_ニ砲_ヲ發_ス向_テ下_リト左_ニカ_ク月下_ニ者_ハ人心_ハ
 至_テ平穩_ナトモ_ス航_今地_ヲヨ_リ穀物船_ノ入_洋モ_ス者
 又高_況モ箱_板借_ノ北_リ額_シムル_ガ如_シ
 三月_ノ了_リ口_領は_レ高_代視_察致_ス 數_日前_ニ忠_臣道_安城_櫻
 山_及ト_ホト_水原_ノ向_ナン_ケイ_ユト_称ス_街道_筋ト_名々_數百_ノ
 暴_民群_集ト_日本_人ト_見ル_者ノ_數實_ニ由_リ數_日前_已ト_人
 銃_殺セ_ムリ_ト事_トガ_者港_{貿易}高_店負_ト名_ト月下_トホ_レ
 地_ニ存_テ非常_ノ危_険防_ル民_心由_テ保_護引_ル方_ハ航
 夜_多作_テス_者ハ_不取_放高_銃巡_査一_不朝_歸巡_査二_名
 日_通本_水跡_回地_ハ出_張致_ス者_多又_忠臣_臣及_レ兵_隊ト_於ケ_ル
 航行_高者_ハ月下_コウ_ケ地_ニニ_三十_人集_テ引_揚ノ_津

外務省



備リおし者波ノ保護シ作キこし由之ハ亦大急保護
ツカヘスリ得エ因テ者波巡査ニ名ニ出張シ令ニ給
巡檢數名曰及昭言 郡山ノ向ハこし終ヤコリ

日 富在釜山加藤領事館 当地ヨリ南方十六里

馬山浦川南ハ異統獨極ノ地トナリタガ如シ就中威安、鎮海

其ノリ吾等觀望及ニ釜田江ハ逃走シ威安郡守ハ賊ノ為メ

殺害セシタリト云ク又昌寧、金海(各境ヨリ大凡七里)等

モ不穩ノ模様ニ就テ月下觀望及リ人ヲ派シ探偵中

外務省

ナリ

口 ナテ在仁川駐在領事館ヨリ代官手紙 当地ヨリ

九里ノ水原ハ異統獨極ノ地トナリタガ如シ就中威安、鎮海

企テ各ハ巡査ニ名ニ出張シ令ニ給

係テ出張シ令ニ給

九里ノ水原



機受第五七七號

次官

陸軍省第一號

主務政務局中由

陸軍省送甲第九六一號 通商局

朝鮮解任之於今果徒押取去表之并
同西人探偵、復命出該地守備隊
長より事出、事以系考と及此返
計之也

四月廿七日

陸軍省主務政務局

外務次官系致殿

延平子紳書款、以用所悉皆返也

手記之也

5-1 3 1 0

0319

明治二十九年五月廿六日 遼瀋 記録 遼瀋

明治二十九年五月廿六日 起草
同日 廿六日 發遣

主任

廿九年五月廿六日 遼瀋

淨書 校正

送第 二六 號

貝と陸軍少佐殿 有外務省

於此に於て、暴徒押取、新義二回、探偵

、博覧會送中、第九六、七、八、九、の送、山、成、同、人

、此、加、る、為、力、用、の、届、出、し、事、件、自、ら、行、つ、た、事

外務省

、此、事、件、に、對、し、て、是、の、上、に、及、ぶ、事、件、に、對、し、て、

、此、事、件、に、對、し、て、